四月朔日

山邊出一り　はい原

一三文　江戸屋　彌右衛門

一り半　はせ

一五文　又三郎　こまや

一り

一廿六文　甚右衛門　なばり

一三拾六文　三わ

一拾八文　同守　賽錢

一百六十四文　おびとけ

二日

一百五十文　春日御初穂

一貳拾文　同　賽錢

今日大雨にて一りほと出て則國元祭りに候得は其心にて好宿へ留り　あまか辻　なら吉

一貳百文つゝ

外酒

一百九拾文　三人分

三日　今日者天氣好大甘

一貳文　茶屋（むろつ通）

藤の村

一拾五文　茶代　わらす

一貳文　前（とうけ）

一拾六文　辨當

一百文　玉作り

一百文　まん中

夫より筋かいはし西北の方に

我病のとこにさひしさに

一我身は如何成そ假の形は今村宮に少しつかへし禰宜とやら其

人からはたとへて見れは土の人形につゝれをきせて鳥のをと

しにさもにたりよまして見てもよむ事成す書して見ても書事

ならすものはいへともしやうねなうていうた斗てあともなし

扨其ものいう其中に十に一つは尤らしいことも有かやさて世

の中のひろい世界のまた其中にこゝにをひとりかしこに壹人

しらけのもみとや縁有人はあつまり增てさて先生よ神佛よと

あかむる人も所々折節こさるあとは色々うたがう人や山し外

道と云また人やおこゝろ心におしやるもをかしぐわんらいわ

たしは心はぬけて今いう事も忘れてしまひあとは何やらおほ

やせん時にを一人おとやる人か心なしには何またいやるいや

る其元心しやなひかおとやるお人もこもつともしかし世の中

尤過てうこけぬ事もおほひげなわたし心はこ空てあろかわたし考へさつはりあかぬ明たお人も油斷はならん明ぬわたしかまたまましか

雲に一首うかみしまゝ

天地の心はおのか心なり
ほかに心の有とおもふな
また此歌に迷ひ給ふな其心を
なきというなきには人の迷ふらん
なきこそ有の本の本なり
こゝに一つのふしきな事はとくもちからもなきまた我にめつたむしやうにしたかい給ふたつときお人も賤しき人も老たる人やわかき人や男女しやへつなく種々色々の病ひの人かましなひ呉よとおたのみ有りて（以下斷絶）

二六

六　孔子
一　宗忠
二　釋加

天保十一年子十月四日伺奉る卦也
（此歌は石尾乾介氏の歌也教書第一輯第十九號御書翰參照）

二七　弘化二年巳九月十九日晩卦

一

難有〳〵とて世に住は
ありかたき事斗成ける

藤原宗忠

二八　（前文破損）より郡の主え（破　損）鶴をまたよに（破　損）候を今日歳神（破損）まへに家内打寄戴き候處へ龜と申人參り難有のまゝに此宿え參り候まゝよつら〳〵あんするにゑにかく鶴龜多く候に今元旦に參り候まゝ誠に嬉敷まゝかく壽け筆にかく侍りぬ

我宿え鶴と龜とかまいこんて
千代万世のみちひらきせん

二九　天地の神にちかひし（破　損）
へたつる雲祓ひ（破　損）
我れあしくは我（破　損）
君あしくは君は（破　損）
兄弟

三〇　（破損）たきことはつきせぬ世中に
（破損）ふの今にはしく時そなき
（破　損）日はまたこぬ世の中に
（破　損）有かたきかな

三一　世に咲る花の盛りをよそに見て　一
明らけき道有事を知りなから　二

朝顔の花よりさとき身を持て　三

天つちの中に生るゝいき物を　四

死るとやおもふ心のくらやみに　五

身を喰ふ鬼とはしらてうか〳〵と　六

大事とそ思ひなからもいつとなく　七

三二　人のよはたゝ夢成と（以下破損）

（左は教書第一輯雜第六號の御文に連續すべきものなり）

三三　此身直に神也少横道へ行は根の國也鬼の世界也恐るへし〳〵つゝしみ給ふべし

三四　毎日一粒つゝ朝日御向御戴き可被遊候

三五　中臣祓御禮

一六千度〇〇〇七千度〇〇〇百六十

一千二百度二千度〇二百度九百度

一四百度〇千八百千二百度三百

五十度〇四千度百度〇三千五百（右御禮）

一安產御禮△四千度二千五百（又先達て外に三百六十）

〆二万七千内二万千八百六十●印引

又あん產御禮四千引

殘而千百四十過又七百度又二万三千八百五百度

又殘而三百四十七百度八百度

又五百度三百又百度六百六十度

又千二百度又千百度六百五十度五百

又五百三百二百六百八百度

〆九千二百五十三百又五百○此内二千

又二千六百七に成○度　三万七千六百五十●又引又二千引

〆一万三千百五十○○○

又引殘八千六百過也又五百

又一万二千五百四百又三千二百

又七千五百度○○○又三千五百内千○八

又●千引又三千度又二千

一百九十一　御　祓　岡氏

一二百十　郷司氏

一六十四四十四十　野津氏

一千二百五百五百　黒住

一二百四十百百八十　福田

一五十百五　櫻井

一二十二十　蜂谷

一五　十　山崎

一十　九　寒川

一廿八本　野上三百三

一廿三五百十八　梶坂

〆四千百六本

日々上成り

一五　十　度
一三十六度
一同　斷
一同　斷
一同　斷
一同　斷
〆二百三度
一十　二　本
一右　同　斷
一右　同　斷

五一　奉祈

日の大神
両皇大神
八幡宮　春日大明神住吉
道祖宮　今宮村三社宮元宿
石田氏
尾關氏
堀　氏安産

一江戸表
一同道中　大願成就仕廿日無難罷帰り難有奉存上候
一おこり八の日　廿一日に忘難有奉存候
一同病　同　同相忘難有奉存上候
一同右同斷難有奉存候
一同
一同右同斷難有奉存候

御武運御長久　辰御年
池田丹波守様
○一森彦六郎　卯（破損）
道中安全
○山田氏　預小頭寅年也（破損）郎
○花屋（破損）吉家内（破損）
御禮
○西〃古松丑年男
大〃供たはこや家内
○同〃村八百屋母

一大病　梶浦太郎兵衛　午年也

一　其外門人中

一　同信仰の人々

廿一日

一おこり　西中島花家内

相忘難有奉存候　○　辰年女

一同病　船頭町伏見氏

娘戌年女毎日

一同病　毎日　尾上町

廿一日難有奉存候　○　丑年男

第四　道連年覺留

天保五年午五月晦日

一辰御年　天保五午年三十九　丹波守様（池田家分家生坂藩主）

祭替丑

日月星神
三社宮　御（蕭薛）　丑之御歳
八百萬神　御祓
御壽命長久

一亥年男　同年四十四　古田雄次郎（岡山藩士五百五拾石）
一辰年女　同七十五　同　母
一丑年男　同十八　同　權之介（古田雄次郎相續人使役五百五拾石）
一巳年女（本性申年女同三十五 轉性巳年）　同　下女つる
一未年男　六十　嫁　青地藤四郎（岡山藩士引廻三百石）

一申年女　八十三　同　母
一巳年女　同五十　同　家　室
一午年男　同十三　同　藤　吉
一酉年男　同十　同　留　吉
一酉　山田彌太郎（岡山藩士大組三百石）
一辰年男　同六十三　山田市右衛門（山田彌太郎養父物頭三百石）
一　同　同　娘　子
一戌年女　同三十三　同
一未年男　同六十　石尾乾介（岡山藩士大組百四拾石）
一戌年女　同四十五　同　室
一卯年男　同　同　庄之介
一午年　悴　綱太郎
一寅之歳　六十一　万代段右衛門（岡山藩士大組百六拾石）
一未年男　同六十　入澤甚介（岡山藩士大組百石）
一卯年女　五十二　同　室

一
一子年　同十九　同　娘　子
一亥年　荒尾清左衛門（岡山藩士旗奉行三百石）
一戌年女　同　室
一子年男　同悴清左衛門
一午年　同　よ　め
一午年女　同　孫　子
一巳年男　同　孫　子
正五九月月待　奉書八ッ切四枚　無上靈寶神道楫
只し正月斗先文之通
五九月は月待計　奉　書　半　切　土　公　神
一戌年　佐々圓之介（岡山藩士、小性組持弓筒引　廻三百五拾石）
一子年女　同　祖　母
一巳年女　同　母
一子年女　○同　おば

一午年男　同　弟
一酉年　安田平右衛門（岡山藩士組頭三百五拾石）
一戌年女　同　室
一丑年男
一巳年女
一戌年女
一子年　四十六　日月星拜　古松之入
一寅之歳　麻瀬士君　板倉図之進殿
一未之御歳三十四　池田出雲様（池田家家老三萬石）
同卯之御歳　同　奥様
一　青地藤右衛門（岡山藩士、留守居二百五拾石）
一亥年女　三十二　同　妻　女
一　辰己藤　吉
一　半次郎
一本性亥轉性酉也　妻　女

酉年也　五十八　郷司七右衛門（岡山藩士大筒役二百石）
一子年　同　人
一未年　五十一　妻　女
一辰年　二十九　悴　茂左衛門
一巳年　十七　娘
一辰年　山田氏
正　五　九　月
一丑之歳　村瀬岩三郎（岡山藩士四百五拾石）
一午之とし女　内所
一　寺澤氏
一子年
一卯年女　妹
田中
一戌年　佐三次
一丑年　母

一丑年　悴　九　之　吉
一辰とし女　岩太郎　妻
戌年九月　荻田勝左衛門と改
一辰年男　十九　荻田壽三郎　源内（岡山藩士小性組引廻貳百石）
一丑年　四十七　養　母
一午年　四十一　おな　を
一酉年　三十八　おい　そ
一午年　十七　おむす
一寅之歳　長谷川瀬介
一卯之歳女　内　室
一
一亥年　西村官兵衛（岡山藩士）
茶屋町
一巳年　茶屋町　吉右衛門
一午年　吉　藏

一未年　同　家　室
午年　娘
正五九月
一寅の年　奥村圓左衛門（岡山藩士）
一申之歳女　内　室
一酉
一申　藤原藤作（岡山藩士）
一子年　矢坂（不明）次幸（不明）介
一轉性戌　幸　母
一亥年　幸四郎事久五郎
一子年　母
一亥年　妻
一　娘
一辰年　同庄之介
一子年　家　内

一子之歳　藤田勝介（鍋山藩士池田兵庫家老百六拾石）

正五九月

一巳之歳　森下重兵衛（岡山藩士）
一子之歳　同　内室
一申之歳　同　亀次郎（岡山藩士）
一戌之歳　同　内室
一未　紙工　中村權太夫
一子年　尺所　大森武介
一寅年　同　家室
一申年　同　補喜太
一亥年　同　栢二
一辰年　同　勝四郎
一午年　同　お眞子
一申年　同　仲五
一午年　同　武右衛門

一戌年　同　室おとき
一辰年　同　娘おあい
一申年　同　おあさ
一巳年　東屋ば
一酉年　秋山千右衛門
一子年　同　勝之介
一子年　同　室
一亥年　同　おさた
一辰年　大供　たばこや　金十郎
一　同　父
一　同　母
一亥年女　同　家内
一酉之歳　福島　嘉太夫
本性酉生
一轉性戌生女　同　家内

正五九月

野崎日待連中

一卯年　家内安全
一寅年　同　断
一子年　同　断
一戌年　同　断
一たしか申未年　同　断
一酉年　同　断
一亥年　同　断
一巳年　同　断
一亥之歳　加島屋嘉吉
一亥之歳　田の口屋元右衛門
一同亥之歳　中仙道新田平六郎
一辰年　悴代　丹羽僧吉助
一午年　同　隱居
一戌年　同　母

牛窓松屋

一辰年　吉兵衛
一亥年　母　老
一申　母
一寅年　よめ
一申年　小八
一申年　三平
一巳年　同人妻
一午年　喜藏
一酉年　要藏
一亥年　喜藏妻
一亥　娘
一丑之歳　池田勘解由殿（池田家中老四千石）
一巳年女　御養母
一巳年女　奥方

一巳年　鉄屋平八郎
一申年　おかし
一丑年　林之介
一卯年　千代三
一未年　おこう

たけ五寸五分　よこ一寸六分

今村宮
馬屋安壽長(印)
八百萬神
祈攸

一丑年　三十三　藤原宗忠
一辰年　七十八

松井嘉七郎（岡山藩士大組五十七俵）
同　人
祖母

一戌年　六十　同　母
一巳年　二十九　同　家内
一午年　四才　同　娘
一丑之歳　宮内藤井喜代介
一酉之歳　同河本泰祐
一辰歳　四十二赤坂郡河本村　文左衛門（大庄屋）
一子年　三十四　妻
一午年　十六　娘
一酉年當才女　孫　娘
一丑之歳女　孫　娘
一卯年　西中島米屋五兵衛
備中早島豐久村
一寅年　兒島屋甚之介
一酉年　忰新之介
西大寺新右衛門

一戌年　良之介
一子年　母
一卯年　妻
一辰年　同肥後屋　太七郎　女
一午年女　西大寺　紅屋姉
一子年男　仝　與介
一寅年　福田留藏（岡山藩士、福田丑之介養子）
一子年　母
一午年　妻
一辰年　悴
一寅年　娘
一卯年　河上市之丞（岡山藩士）
一辰　同　妻
一申年　同　母
一戌年ぎやく　同　悴

一申生女　高木文右衛門（岡山藩士）　御家内
一巳之歳　坪田菊右衛門
一本性申年　轉性木年　下加茂　朝太郎
正五九月御日待
一辰　櫻井宇八郎（岡山藩士）
一辰之歳　櫻井喜間太（備中賀陽郡宮内吉備津宮社家）
一巳之歳　池田中務少輔様（池田家分家壹万五千石生坂藩主）
沖新田壹番渡の邊　榮藏　悴
二十七　常藏
戌之歳　藤井牧太
一未之歳男　石尾喜六郎（石尾乾介）
一戌之歳女　同人妻
一子之歳男　同勘治（石尾乾介養子）
丑の三月十四日
一寅之歳男　尾關丈五郎（岡山藩士大組四百石）

一本性午之とし
祭かへ巳之歳女　右丈五郎　母
一本性亥之歳女
祭かへ又亥之歳　同人　石田孫一郎妹　妻
戌之歳男　尾關隱居
巳之歳女　同　奥
申之歳女　當代　奥
亥之歳女　同　娘
一巳之歳男　石田孫一郎（岡山藩士引廻三百石）
一亥之歳女　奥
一子之歳男　悴
一卯年　悴　万々歳
一本性酉歳
轉性寅　松崎新田　梶坂清兵衛
一丑歳　今村造酒之介
一未之歳女　同　人　妻
一卯之年　一森彦六郎（岡山藩士馬役百貳拾石）

一午之歳女　同　人　妻
一戌之歳女　同　女　郎

日月星正五九月

一寅年　下加茂久左衛門
一未年女　同　人　妻
一未之歳　紙工中村權太夫

覺

一本性辰
轉寅　小高惠四郎（岡山藩士）
寅　嘉三郎
酉　娘

正五九月

一巳　石田孫一郎（岡山藩士引廻參百石）
一元へ歸亥年　同　奥
正五九月
一巳之歳男　宇野善左衛門（岡山藩士）

一亥之歳女　　同　　嫁
一丑之歳　　今村宮御祓頂戴　岩井武三郎（岡山藩士大組四百石）
正五九月
一卯之歳男　　大工藤吉
一午之歳男　　壽介
一辰之歳　　西中村多藏
一子之歳　　福田甚左衛門（岡山藩士、郡奉行百八拾石）
一未之歳　　同姓直太郎
一亥之歳　　庭瀬御家老渡邊藤太夫
一本性申年轉性未年　　當新田村常三郎
一亥年　　悴安次郎事　替名市右衛門
一辰年　　正二事　同同三年
宗忠二人共名を遺す
一丑之歳男　　七島屋五郎右衛門
一未　　悴新藏

一寅之歳男　　濱野村卯三郎
一卯之歳　　悴源三郎
一戌之歳　　今村笘右衛門
一午之歳男　　志賀淳平
一子之歳女　　妻
一亥之歳男　　同姓安之介
一辰之歳女　　淳平母
一申之歳女　　兒島へ參る娘
一丑之歳女　　次じん娘
一子之歳女　　次娘
一卯之歳女　　次娘
一亥之歳男　　嘉一郎
一　　矢部右介（岡山藩士）
一　　同人妻
一　　同悴

一丑之歳女　　同　娘

六月朔日

三十一　中之町　おの　や

一子年女　治右衛門妻

一子之歳男　小野新兵衛

一辰之歳　妻

一子之歳男　喜間太

一辰之歳　信吉

一酉之歳　富吉

一午之歳　赤木久治（岡山藩士）

一子之歳男　藤田勝介（岡山藩士池田兵庫家老百六拾石）

一酉之歳　山田彌太郎（岡山藩士大組三百石）

一戌之歳　同人妻女

正五九月御札

寅の年　山崎寅吉親

卯年　同　彖次郎

一同卯之歳　大供万倍屋　忠兵衛

正五九月　御札頂戴

巳　森下重兵衛（岡山藩士）

申之歳　同　龜次郎（岡山藩士）

巳年　寒川伴介（岡山藩士六兵衛又は勇平と稱す）

巳年　森下重兵衛（岡山藩士）

戌年　七日市八之介

亥年　二日市町島屋熊吉

酉年　二日市村定吉

亥年　瓦師六左右衛門

巳年　同作兵衛

寅年　同西屋

巳年　同利吉親安五郎

巳年　同龜吉

申年　同　之　介
丑年　同　圓　次　郎
巳年　同　坂　本　長　屋
丑年　同　長　次　郎
酉年　同　卯　上　野　藤　吉
辰之歳男　上　野　藤　介
本性午之歳男　草　野　才　助（岡山藩士）
轉性寅之歳　同　仁　八　郎（岡山藩士）
戌之歳
正　五　九　月
子之歳男　笹　谷　武　次　郎（岡山藩士）
正　五　九　月
子之歳男　景　山　卯　介
丑之歳男　瀧　川　彌　右　衛　門（岡山藩士大組三百石）
一　大ヶ島　中　山　常　次　郎（大庄屋）
赤坂郡河本村組名主中

一子之歳男　山　手　村　義　三　郎
一未之歳男　西　窪　田　村　定　之　介
一巳之歳男　多　賀　村　周　左　衛　門
一丑之歳男　小　原　村　幸　太　郎
一寅之歳男　由　津　里　村　幾　三　郎
一丑之歳男　東　輕　部　村　虎　之　介
一未之歳男　町　苅　田　村　官　兵　衛
一亥之歳男　東　窪　田　義　左　衛　門
一申之歳男　町　苅　田　一　右　衛　門
一辰之歳男　東　輕　部　村　順　一　郎
一酉　山　手　村　貞　三　郎
一亥　大　屋　村　與　四　右　衛　門
一子　由　津　里　村　鹿　三　郎
一未　南　佐　古　田　村　隆　太　郎
一戌　西　窪　田　小　三　郎

一子　惣分村　鶴右衛門
一子　同村下分　廣藏
一巳　東窪田　貞藏
一酉　神田村　順次郎
一未　西窪田　八治郎
一亥　多賀村　利左衛門
一酉　今井村　喜藤治
一子　西輕部村　榮左衛門
一丑　邑久郡百田村　克太郎
一卯　同福元村　万吉
一子　同　同　惠吉
卯之歳　一森彦六郎（岡山藩士馬役百貳拾石）
午之歳　同　人妻
戌之歳女　同　女郎
一　邑久郡下山田村　宋次郎

一未之歳　同　佐山村　來藏
一午之歳　同　西幸崎　龜藏
一戌之歳　同　忰小　傳次
一巳之歳　同　下阿知村　爲藏
正　九　月
一三十一枚　村　中
中杉原書札洗米相添家内安全長久
御守拵覺留
未正月末　千百八拾　同二月二日　千六百　同二月七日　貳千
同二月九日　五千　同二月十八日　三千八百　同二月廿五日　貳千
同同廿八日　四千　三月四日　貳千　三月十日　千六百
一寅之歳男　平松友右衛門（岡山藩士）
一未之歳　平松與平次（岡山藩士）
御守拵覺留帳
午五月十五日　貳千百五拾　同　十九日　千　同　廿六日　貳千

同　廿八日　千貳百　　同　八月　貳百　　同　極月　千四百

一三百御守　　正月上旬
一五百同　　二月廿七日

一貳千八百　御守
一八百　同
一千　御守
一千五百　御洗米

二月廿七日
一千　御守

一千　御守　忠兵衛
同
一八百　御洗米　同　人

とんだ町中屋　三兵衛

百田克太郎

一六百御守　　二月上旬
一御洗米五百　　同

三田左兵衛

一三千五百　御洗米
一千五拾　同
一貳千五百　同

宮内河本氏

同
一千　御洗米
三月十七日
一御守四千　同　人

第五　門人名所記

天道往て還らずといふ事なしと宜なる哉古人の說忝くも我　皇國の神道當時微にして儒榮へ佛盛なるも三才自然の時なるのみ于茲我先生黑住翁は年月日時ともに子を以顯れ給ひ于眞天のなせる太神なるのみならす春秋三十五歲といふの冬至日拜在らせられてより其道大に行はれ四方風を望んて歸し門人日に月に增ほとんと千か萬か其數をしらず中にも信仰の厚き徒其の名の聞ゆる者のみ此に記しぬ于實千百に一といふ歟于時

弘化丁未の夏

門人

時尾克謹志

文化十二年

小野榮三郎（備前國御野郡上中野村）　末廣千吉

文化十三年

小林禎之介　次田文八郎（岡山藩士大船頭）
佐藤紋四郎　原　眞介
伏見恒三郎（當新田出身生坂藩士）　本郷惣四郎
七島屋　歌（備前國岡山）　橋田卯三郎（備前國御野郡濱野村）
山口甚吉

文化十四年

蓑浦平八郎（備前國岡山）　寺尾辨次郎
難波段右衛門（岡山藩士大船頭）　岡　寛左衛門
七嶋五郎右衛門（備前國岡山）　塩見萬吉（岡山藩士船手中小性）

佐藤龜藏　竹内嘉太夫
南　權兵衛　黑田その
佐藤茂右衛門　黑住長平

文政元年

皿井梅吉　秋岡千助
黑住龜吉　黑住龜次郎
角田又右衛門　鉄屋とく
福田きぬ　七島屋千世（備前國岡山）
小山要藏

文政二年

武市辨次郎　關　淺之介
古田正長（岡山藩士大組五百五拾石、通稱雄次郎）

文政三年

尾　仲　裕（岡山藩士百三拾石　通稱長三郎）

文政四年

石尾乾介（岡山藩士大組百四拾石）
長瀨佐三次（備前國御野郡田中村　後岩太郎と改む）
野呂りよ
菱川銀三郎
青地藤四郎（鯉山藩士引廻三百石）
同　人　母
同人娘　東風代
石尾善左衛門（岡山藩士大組百二拾石　石尾乾介父）

文政五年

長谷川純孝
山田吉左衛門（岡山藩士中小性）
佐藤長次郎（備中國都宇郡茶屋町）
鈴木周直（鯉山藩士）
同　人　妻
同人娘　小佐味
淺野瀨兵衛（鯉山藩士大組五百石）

福田佐代
長谷川彌一郎
花屋善吉
野呂俊平
松井加禰
大口智曉院
一森織尾
古田正長母

文政六年

石尾乾介妻幸
植田ゆか
佐藤さわ
小野三郎兵衛（備前國御野郡上中野村）
菱川安左衛門
大口平左衛門
小川甚六郎
佐分利菊代
大口直
一森さいせう院
一森心操院
簑浦千代藏
三澤龜次郎
虫明幸吉

文政七年　西村喜介

文政八年　今村美歌　一森秀六（岡山藩士、馬役百貳拾石、文政八年正月彦六郎と改名）　藤原正木　藤原千年（備前國御野郡今村權頭）

文政九年

文政十年　庄野是五郎

文政十一年　龜山平六（備前國御野郡中仙道村）　川畑清吉

文政十二年

天保元年　橋田卯三郎（備前國御野郡濱野村）　安福友吉　安福金次郎（再神文）

天保二年　岩田金十郎　宮崎新吉

天保三年

天保四年　大森武介（備前國和氣郡尺所村）　大森とき　大森順風　秋山勝之介（備前國和氣郡和氣村）　神崎親右衛門（備前國和氣郡和氣村）

天保五年

郷司七右衛門（岡山藩士大筒役貳百石、茂左衛門父）　同人妻藏
同人娘君　郷司茂左衛門（岡山藩士大筒役貳百石）

天保六年

佐藤吉藏（備中國都宇郡茶屋町）

天保七年

那須三平（備前國邑久郡牛窓村）
那須喜藏　那須要藏
那須喜藏妻うの
神崎いわ（備前國和氣郡和氣村かめ屋）　神崎まつ（同上）

天保八年

志賀淳平（備前國御野郡南方）

秋山家治（同上）
太田谷八娘ぎん（備中國賀陽郡西花尻村）　佐藤九右衛門（備中國都宇郡茶屋町）
同人妻ゆか　同人悴要次郎
太田谷八　太田元右衛門妻てい
森文左衛門（備前國赤坂郡河本村大庄屋）　太田元右衛門
森龜次郎（備前國赤坂郡河本村）　同人妻るい
荒木新右衛門妻梶（備前國上道郡西大寺）　同人妻つよ
荒木良之介（備前國上道郡西大寺）　同人母都勢
上野太七郎　荒木新右衛門（同上）
岡崎丹藏

天保九年

紅屋かめ（備前國岡山西大寺町）　紅屋與介（同上）

天保十年

末廣彦之進（岡山藩士）　同人祖母

同　人　母
末廣千之介
同　人　母
岡　強　介（岡山藩士、岡多兵衛子）

同　人　妹
岡　多　兵　衛（岡山藩士大組七拾貳俵）
同　人　妻

天保十一年

中村權太夫（備前國津高郡紙工村）
中村直太郎
片山須摩（備前國津高郡加茂）

中村　幾
中村　道
片山朝太郎

片山久馬治
松田孫七郎（生坂藩士）
田口常之進（岡山藩士田口愛三養子）
深井源助（備前國津高郡白石村）

松田　武（生坂藩士、諱は信義、翠崖と號す、畫に秀づ）
田口　愛三（岡山藩士大組二百石）
林　慶助

天保十二年

湯淺述介
田口愛三母
同　人　娘

鄉司茂左衛門家內（備前國岡山）
同　人　妻
櫻井喜間太（備中國賀陽郡宮內吉備津宮社家）

天保十三年

山田彌太郎（岡山藩士大組三百石）

尾關丈五郎（岡山藩士大組四百石）

天保十四年

黑住正三九（備前國御野郡矢坂村）
寺本助之進（岡山藩士）
宇治龜六（岡山藩士）
宇治孝治（備前國岡山）
赤木久治（岡山藩士）

一森美喜（備前國岡山）
小高嘉三郎（備前國和氣郡矢田村）
宮田正翁（備中國都宇郡撫川）
片山靜象（岡山藩士）
矢杉久吉（岡山藩士）

松尾所左衛門（岡山藩士）
伴　次郎七（岡山藩士）
窪津慶介（岡山藩士）
坪田菊右衛門
西村官兵衛（岡山藩士）
波多野好樂（池田伊賀家老七百石）
佐々木龜治（同國同郡同村大庄屋格）
村瀨岩三郎（岡山藩士大組四百五拾石）
今中兵助（岡山藩士）
山崎寅吉
八部安左衛門（岡山藩士八部安九郎養子）
寒川六兵衛（岡山藩士伴介又は勇平と稱す）
乙倉惣三郎
野村庄兵衛（岡山藩士）
梶坂清兵衛（備前國上道郡松崎新田村）
野村屋平左衛門（備前國岡山）
難波次郎右衛門
野上三百吉
妹尾源大夫
和田勘右衛門
山磨傳太郎（備前國上道郡倉田村）
星嶋宮（同國兒島郡天城星島良平母）
淺沼惣次郎
安田又左衛門（岡山藩士）
八部安九郎（岡山藩士）
佐野定左衛門
下野議作（岡山藩士）
山田東吉
難波萬治（岡山藩士）
高取左源二（岡山藩士）

蜂谷俊造（醫師）
新十郎（備前國赤坂郡新庄村）
岩之次
佐藤孝右衛門
野津平八（岡山藩士）
同人母
竹次郎（同國津高郡鹿瀨村）
竹次郎妻
藤原東作（岡山藩士）

弘化元年

石田六左衛門（備前國御野郡二日市村）
高戸圓之介（同國同郡二日市村）
松原利吉（同上）
平松與平次（岡山藩士）
香川七太夫（岡山藩士大組百五拾石）
中山常次郎（同國邑久郡大ケ島村）
中山鱗吉（同上）
武田一三（同國同郡大ケ島村諱は茂冬五蜂又白山と號す醫家也）
三田忠兵衛（同國同郡大供村）
佐藤作兵衛（同上）
泰久之進（岡山藩士城代浮組七拾俵）
德田茂平（備前國上道郡西大寺）
醫師恂太郎（備前國和氣郡伊部村）
中山權三郎（同上）
今田宋次郎（同國同郡下山田村）
奥田鶴吉（同國同郡包松村）

時尾克太郎（同國同郡百田村）
田中定之丞（同上）
野上來八（備前國岡山）
木村良右衛門（美作國眞島郡落合村）
小林多次郎（同上）
太田祐介（備前國御野郡二日市村）
羽原大三郎（備前國岡山）
直原助九郎（美作國久米南條郡大戸村）
森下重兵衛（岡山藩士森下龜次郎父）（後伊八郎と改稱）

弘化二年

末吉廣平治
奥村圓左衛門（岡山藩士）
横林讃岐（美作國久米南條郡）
大森てい
窪津柳二（備前國岡山）
道家爲治（岡山藩士）
藤井喜代介（備中國賀陽郡宮内村）
小原助左衛門（備前國岡山）
谷口藤兵衛（同上）
森下龜次都（岡山藩士諱は景端）
布施鮮樂（岡山藩士通稱藤五郎）
浦上鉄治（岡山藩士）
原木平彌（岡山藩士）
赤穗屋恒太郎（備前國岡山）
松田・きし
中原みち

太田みか
中原保太郎
中原清五郎
大森三治兵衛
同人妻
山本淳介（美作國勝南郡）
鳥越與吉郎（同上）
山本龜太郎（同上）
横野長右衛門（同上）
湯淺薩摩（同上、後松岡清見と改む）
備前屋岩吉（同國大阪）
坪井大潤
同人妻たき
同人妻さつ
板野紋十郎（御郡會所之内）
武繩大助
太田直七郎
松田治郎兵衛
高塚眞介
仲矢正平（美作國勝北郡）
鳥越重松（美作國勝北郡）
河上元之介（同國勝南郡周佐村）
横野喜右衛門（美作國吉野郡）
木村源藏（美作國東北條郡）
若松屋九兵衛（攝津國大阪堂島濱）
久兵衛（同國大阪向堀）
五明屋閑介（備前國岡山）
三澤佐兵衛（岡山藩士、大阪藏屋敷）（定員付）
木屋やす（攝津國大阪中の島）
梶原龜藏

小林七郎右衛門（美作國勝南郡）
松田修平（伯耆國川村郡）
高山三平（美作國勝南郡）
河原藤四郎
西村齋介（美作國勝南郡稻穗村）
岡讓五郎（備前國岡山天城屋敷）
村上英左衛門
貞廣清左衛門
大塚唯七
かね
神崎佐四郎（備前國赤坂郡新庄村）
草野才介（岡山藩士）

弘化三年

岩崎勘藏（美作國勝南郡）
高矢彌吉（美作國勝北郡）
佐四郎
畝本林藏（同國）
河原德次郎
安藤榮次郎
松田幸平（美作國久米北條郡）
飛山彌平次
梶田彦太郎（備前國兒島郡）
寺見平次兵衛（備前國岡山）
下村六左衛門（岡山藩士）
野崎民藏（同國同郡）
草野仁八郎（岡山藩士）
福井宗右衛門（同上）

横田倉助（同上）
野村周藏（同上）
猶村覺治（備中國賀陽郡大崎村）
光石壹岐頭
治郎丸榮藏
井上友吉
東內和泉頭（美作國英田郡）
絹畑兵藏（美作國英田郡）
山本元吉（同上）
東內林兵衛（同上）
前川與六（同上）
和田三六（美作國勝南郡）
荒木惣平（同國吉野郡）
和田三六妻（同國勝南郡）
貞森孫兵衛（同國勝南郡）
禾本安次郎（同上）
角南良平
猶村武治（同上）
光石兵庫
福井富三郎
大鷹新嘉之介（岡山藩士）
同人妻
戸田長藏（同上）
粟井重郎右衛門（同上）
田淵屋松之介（同上）
伊藤德介（同上）
寺尾小右衛門（同國英田郡）
西川利右衛門（同國英田郡）
安東園吉（同國英田郡）
貞森佐次平（同上）

安東與兵衛（同上）
辰平娘　せ　と（美作國英田郡）
角南良平妻うた
同人妻　町
香西重太郎娘かつ（同國吉野郡）
谷口よせ
近藤龜太郎（同上）
同人母　初
同人娘　幸
岡　惠吉（備前國邑久郡福元村）
尾形源次郎（同上）
今田良吉（同國同郡下山田村）
安井權頭（同上）
泰　寛（美作國東北條郡大篠村天台沙門）
宇野榮藏（岡山藩士）

同人娘　くま
日置伊太郎（同國西々條郡）
黑田清右衛門（美作國英田郡倉敷村）
石黑喜兵衛（美作國英田郡倉敷村）
谷口卯藏（同上）
横山太郎右衛門（美作國英田郡）
三宅良介（備前國岡山中之町小西屋）
同人妻　たき
同人娘　よし
尾形長次郎（同國同郡下山田村）
時岡兵吉（同國同郡大ヶ島村）
安井要人（備中國後月郡七日市村）
木山右馬進（同國同郡木之子村）
車田兼藏（同國勝南郡）
同人妻

宇野善左衛門（岡山藩士）
本郷五左衛門（岡山藩士大組百貳拾石）
久坂郡治（播磨國三日月家中）
湯淺恒左衛門（岡山藩士）
堀　直左衛門（播磨國姫路家中）
長田曾武助（播磨國姫路家中）
同人母　蝶
同人妹　とめ
多賀千惠
後藤林兵衛（美作國勝南郡）
藤田山城（備中國後月郡木之子村）
影本國助（同上）
西村萩太郎（同上）
伊東直介（同上）

同人妻
同人母
難波助七郎
須藤新次郎（美美作國東北條郡）
同人妻　三枝
金森貴三（岡山藩士）
同人妻　きぬ
上野藤介久喜
幾代
前原龜太郎（同國）
車田富之介（美作國勝南郡）
中村伊織（同上）
藤本作兵衛（美作國英田郡）
大澤安藝頭（同上）

須田吉右衛門（同上）
山本尚介（美作國勝南郡）
今田龜藏
實末榮次郎
左進長次兵衛
岡本小傳次（備前國邑久郡西幸崎村）
橋本一平（岡山藩士）
昆湯野武左衛門（備前國兒島郡味野村多田屋）
藤田勝介（岡山藩士池田兵庫家老百六十石）
後藤なか（美作國勝南郡）
下山利吉（美作國）
岡本八十次郎（同上）
繁藏（同國同郡上相村）
竹内莞兩
前原隆助（美作國東北條郡）

濱藏（美作國）
小武竹八（備前國邑久郡下山田村）
梶原善介
實末庄吉
千原多七郎（備中國賀陽郡下高田村）
福光喜五郎（同國同郡東幸崎村）
萩野喜左衛門
昆湯野常太郎
瀧川彌右衛門（岡山藩士大組三百石）
高木嘉右衛門（同上）
岡本なか（同上）
折介（美作國勝南郡池ヶ原村）
壽介（同上）
吉永岩吉
山口茂一郎

大森樞治（備前國和氣郡尺所村）
目黑傳次郎（備前國岡山）
大森補喜太（備前國和氣郡尺所村）
柴田兵次郎（備前國邑久郡下阿知村）
出井常八（同國同郡奥浦村）
田村孫兵衛
則光要藏
小坂茂太郎（同上）

弘化四年

熊吉（美作國勝南郡）
妹尾嘉曾次（備中國下道郡矢田村）
有元勇次郎（同國）
東内鹿之介（同上）
中和田信治（同上）

增藏
田上綱右衛門
山本猶右衛門（美作國）
中山繁藏妻さか（同國同郡大ヶ島村）
出井芳之介
則次虎次郎
水嶋相模（美作國）

下山傳次郎（美作國）
有元左吉郎（美作國吉野郡）
東内源太夫（同國英田郡）
木村丈左衛門（同上）
檜尾千代治（美作國勝南郡）

中村慶入妻
山本倉藏（美作國勝南郡）
小林順治（美作國勝南部）
武内來藏（備前國邑久郡佐山村）
武内榮介（同上）
彌十七妻　ちよ
三宅勝次郎（同國上道郡百枝月村）
難波喜太次（美作國英田郡下福原村）
長尾對馬（美作國英田郡原村）
中西鉄立（同國同郡下福原村）
中河大和守（同國英田郡北村）
安東槌藏（同上）
菊五郎（備前國邑久郡宗三村）
岡崎伊之吉（同國同郡）
田中吉三郎（備前國邑久郡）
和十郎（美作國眞島郡下高田村）
羽介（備前國邑久郡佐山村）
杉山仙之亟（同國）
武内淺吉（同上）
武内久之介（同上）
小野欣次郎（備前國御野郡上中野村）
森金爲藏（同國邑久郡下阿知村）
同人妻　のふ
東内久之介（同國同郡檜原上村）
戸川健之進（同國久米南條郡藤原村）
安東助次郎（同國勝南郡長内村）
金太郎
岡本万吉（同國邑久郡福元村）
同人妻
喜介（同國同郡長沼村）

庄松（同國同郡鶴海村）
小橋千左衛門（備前國邑久郡佐山村）
沖田龜三郎（同上）
横山庄右衛門（同上）
藤澤千代左衛門（同上）
小野田德之介（同上）
宗平龜藏（美作國勝南郡新田村）
富次郎（備中國賀陽郡下高田村）
馬塲八藏（備前國邑久郡下山田村）
相澤鏻次（備前國邑久郡長沼村）
庄之介妻　きせ（同國同郡鶴海村）
黑田治左衛門（同上）
森喜七郎（備中國賀陽郡足守村）
岸本柳次郎
山口喜右衛門（同上）
沖田熊藏（同上）
横山谷五郎（同上）
武内彌十吉（同上）
日下伴吉（同國同郡磯上村）
坪井垣三（備前國磐梨郡吉原村畑）
眞五郎（美作國西々條郡古川村）
野澤熊次郎妻いよ（美作國英田郡檜原上村）
柴田與市（同國同郡包松村）
彌七妻　ゆみ（同上）
安藤重郎衛門（美作國勝北郡福井村）
兒玉和介（同上）

嘉永元年

神屋儀左衛門
太田虎吉（備前國邑久郡北地村）
保壽院（同國同郡津崎村）
間庭勘右衛門（同國久米南條郡高尾村）
福地九右衛門（同上）
池上浪左衛門（美作國久米南條郡新城村）
内山彌四郎（同國）
萬代馬之介（同國）
野口類藏（同國）
山本柴次（美作國東北條郡下高倉村）
小林儉造（美作國東北條郡大篠村）
櫻井鹿之介（同國西々條郡）
河本泰祐（備中國賀陽郡宮内村）
嘉三郎（同國）
小林右馬之介（同國）
池上久太郎（美作國久米南條郡新城村）
藤原要左衛門（同國赤坂郡）
前原平价（美作國東北條郡大篠村）
玉井千之助（同國眞島郡垂水村）
道守槌藏（同上）
池上仙右衛門（同上）
淺田卯之助（同國勝南郡）
安東蘇平（同國）
瀧本勘ヶ由
米井瀨右衛門
易薩摩（同國東北條郡）
松崎諸令（同國）
新次郎（美作國勝南郡）
山本要藏（同國英田郡）
磯山出雲（同國）

野澤熊次郎（同國英田郡楢原上村）
黑田彌右衛門（同國）
江田甚右衛門
難波利左衛門（同國）
磯山周防頭（同上）
磯山出雲妻竹野（同上）
牧本源次郎（同上）
橋本喜作（同上）
中嶋武平（同上）
木山近江介（備中國小田郡）
三宅長門（備中國後月郡）
吉田周藏（美作國津山京町）
常五郎（同國同郡上弓削村）
作次（同國同郡上神目村）
稻家定右衛門（同上）
安東茂左衛門（同國）
溝口喜市（同國）
武藤善兵衛（美作國英田郡）
東内平三郎（同上）
同人妻元
牧本治作（同上）
橋本多平（同上）
上木七兵門（同上）
大澤一馬（同上）
藤井佐渡（備中國）
藤田但馬（備中國）
熊太郎（同國久米南同郡南畑村）
尙市（同國同郡北庄山手上村）
寺坂榮藏（同國勝南郡上百村）
池田仁五郎（同國西々條郡宗枝村）

池田千代藏（同上）
杉山七兵衛（同上）
福嶋貞藏（同國勝南郡馬伏村）
高田德次郎（備前國和氣郡苦木村）

嘉永二年

花房伴藏（備前國赤坂郡神田村）
房吉（同上）
同人妻
同人母
石谷庄五郎（同國同郡仁堀中村）
和田米藏（同上）
勇五郎（同國久米北條郡角石畝村）
てひ（同國同郡上神目村）
葛原豐之助（備前國津高郡田地子村）
池田虎吉（同上）
大森序七郎（同國同郡上森原村）
福嶋嘉十郎（同上）
高田彌左衛門（同上）
花房泰三郎（同上）
進藤陽之丞
同人娘
東村万之介（備前國赤坂郡仁堀東村）
和田與曾次（美作國英田郡樫村）
和田權之助（同上）
ゆう（同國久米南條郡上弓削村）
ゆき（美作國久米南條郡中籾村）
德兵衛（同國西々條郡奥津川西村）

北原龜藏（同國東南條郡紫保井村）
和田彌市（同國英田郡樫村）
岡野庄太郎
遠藤平吉（美作國英田郡福本村）
小坂作左衛門（備前國赤坂郡山口村）
小林とち（美作國東北條郡大篠村）
遠藤儀兵衛（同國英田郡福本村）
大谷信輔（同國同郡伊田村）
須田吉右衛門（美作國英田郡樫村）
福井雅樂之輔（同國赤坂郡東輕部村）
惠四郎（美作國久米南條郡南畑村）
德太郎（同國久米南條郡下神目村）
仙次郎（同國同郡中谷中村）
國光八十吉（備前國邑久郡奥浦村）
小川武四郎（同國英田郡奥村）
田外重次郎（同國久米南條郡高尾村）
和田六次郎（同上）
須田龜三郎
内田貞造（同國西々條郡塚谷村）
小坂泰次（同上）
山本亦兵衛（同國勝南郡上相村）
友次健左衛門（備前國赤坂郡多賀村）
金谷幸十郎（同國同郡出屋村）
森本忠藏（備前國磐梨郡酌田村）
福井美濃（同上）
靜五郎（同國西北條郡公保田村）
善四郎（同國西々條郡土生村）
鳥越重吉（同國勝南郡樫尾村）
寺澤元達（美作國勝南郡稲穂村）
奥田良藏（同上）

正信才之助（同國久米南條郡塚角村）
金堀熊藏（同國久米南條郡塚角村）
菊池茂八郎（同國下道郡山田村）
在間定吉郎（同上）
平田俊吉（同上）
片岡金兵衛（同國下道郡八代村）
禰屋秀平（同上）
三上総之介（同國賀陽郡惣社村）
福嶋支助（同國同郡由津里村）
新田八重藏（同國同郡押淵村）
丸尾重太郎（同國英田郡北村）
宮本孫之丞（備前國赤坂郡多賀村）
友次儀三郎
勝太郎（同國久米南條郡南畑村）
小川平藏（同上）
西村澤五郎（同國勝南郡稻穗村）
三田利右衛門（備中國下道郡八田村）
平田仙五郎（同國下道郡八田村）
辻彌吉（同上）
在間與吉（同上）
池上良吉（同國賀陽郡八田部村）
小池榮十郎（同國窪屋郡西三澤村）
光川敬右衛門（備前國赤坂郡矢知村）
間庭大和（美作國久米南條郡高尾村）
坂手勝右衛門（同國久米北條郡打穴村）
遠藤長次郎（同國同郡福本村）
武下順右衛門
土井利兵衛（美作國西北條郡田村北分）
小林米藏（同國英田郡奥村）
中川貞助（同國勝南郡中河内村）

中川廣吉（同上）
米戸熊次郎（同國久米南條郡栗子村）
鳥越健次郎（美作國勝南郡松尾村）
藤左衛門（因幡國八東郡上德丸村）
官能九一郎（同國同郡上間村）
村上まず（同國久米北條郡宮尾村）
米井曾平（同國東北條郡下高倉村）
杉山代次郎（同國久米南條郡北庄山手下村）
杉山虎太郎（美作國久米南條郡北庄山手下村）
杉山こと（同上）
磯山治左衛門
平尾岩次郎（同上）
臼井兼次（同國邑久郡東幸崎村）
山本金藏（同國同郡町刈田村）
菅形辰五郎（備前國赤坂郡東輕部村）
岡野三折（同國英田郡樫村）
同人妻かね
日皆田傳左衛門（同上）
民次郎妻ほのか（美作國勝南郡羽仁村）
西本龜藏（同國同郡長内村）
村上さと（同上）
片山軼之介（同國西々條郡下原村）
同人妻せん
杉山伊兵衛（同上）
龜之丞（同上）
有岡門太（美作國久米南條郡北庄山手下村）
齊藤槌松（備前國赤坂郡今井村）
大森幸之介（同國赤坂郡山口村）
谷家龜次郎（美作國英田郡北村）
野々上帶刀（美作國勝北郡大町村）

三宅貞順（同國同郡河内村）
高橋虎次郎（同國東南條郡高野山西村）
河本定吉
岡田茂次郎（同國同郡宗枝村）
佛敎寺嚴鵬
い よ（同國久米南條郡上弓削村）
米藏（同國同郡山手公文村）
嘉傳次（同國同郡和田南村）
日下藤平（美作國西々條郡二宮村）
惠四郎妻りう（美作國久米南條郡南畑村）
高木可平（同國勝南郡殿所村）
卯之吉（美作國久米北條郡角石谷村）
藤原鶴吉（備前國赤坂郡中畑村）
田口觀助（同上）
井上勝藏
齋木正順（同國久米南條郡塚角村）
高橋久米
久宗彌左衛門（美作國西々條郡眞加部村）
佛敎寺嚴敬
達島儀平（美作國東北條郡綾部村西分）
若松屋德兵衛（同國久米北條郡鍋田村）
つる（同上）
武元常陸（山城國京都吉田殿内）
久山忠兵衛
此太郎（同國西々條郡眞永寺村）
近之進（山城國京都）
戸川玉之介
日下芳太郎（美作國久米南條郡押淵村）
是松多吉（備前國赤坂郡）
庫藏（美作國久米南條郡粉山村）

常安熊次郎（備前國赤坂郡惣分村下分）
香山鶴藏（同上）
戸田利右衛門（同上）
青山義太郎（同上）
眞野十左衛門（備前國赤坂郡河原屋村）
眞野義作（美作國眞島郡上山村）
丈吉（美作國久米北條郡油木北村）
妹尾平兵衛（伯耆國會見郡小町村）
赤堀常四郎（同國勝南郡岩見田村）
松坂万次郎（美作國久米北條郡中垰和谷村）
氏平九郎太妻しお（同上）
須道玉之介（同國同郡多賀村）
中河伊勢守（同國英田郡北村）
中河かし野（同上）
同人娘とも
丸尾周藏（美作國英田郡北村）
戸田林兵衛（同上）
戸田友介（同上）
戸田角介（同上）
青山七之介（美作國英田郡神田村）
加左次（備前國津高郡黑瀨大向村）
文助（同國同郡角石畝村）
善六（美作國津山中之町）
武下喜平（備前國赤坂郡多賀村）
山崎茂三郎（同上）
木次留之介（備前國赤坂郡沼田村）
山本仁十郎（美作國勝南郡吉留村）
中河式部（同上）
丸尾十太郎母
同人娘たき

井下善之丞（備中國淺口郡六條院中村）
井上林左衛門（備前國赤坂郡河原屋村）
同人父直右衛門
同人弟　通　藏
同人妹　さ　わ
氏平伊三郎（同國同郡西塀和村）
多兒五郎兵衛（同國同郡中塀和村）

嘉永三年

水嶋瀨吉（美作國勝南郡吉留村）
荒嶋郡之介（同上）
池上小次郎（美作國久米南條郡新城村）
東内八重吉（同國同郡上村）
清原葦齋（播磨國赤穗）
前川安次郎（讃岐國丸亀城下西平山横町）
堀家右内（同國賀陽郡宮内村）
同　人　妻
同　人　母
同人弟　馬之介
す　え（美作國久米北條郡中塀和畝村）
氏平熊次郎（同國同郡中塀和村）
小林造酒（備前國赤坂郡黒本村）
畠中清介（同上）
野澤勘三郎（同國英田郡楢原村）
見村但馬
金龍院（美作國西々條郡眞加部村）
柚木丈之介（美作國西々條郡高山村）

橋元秀藏（同國英田郡楢原村）
見村守之介
清水庄太郎（同上）
安藤嘉兵衛（美作國英田郡下福原村）
藤田新次郎（同上）
宗平源太郎（美作國勝南郡新田村）
草地治郎右衛門（同國久米北條郡東塀和村）
杉元安五郎（同上）
須江歌之亮（同國久米南條郡八出村）
石原忠之進（備中國賀陽郡惣社村）
直原大八（同上）
水内彌一郎（備前國御野郡宮本村）
菊右衛門（備中國川上郡田井村）
廣野石見正（美作國西々條郡羽出村）
友吉妻　玉代（同國久米北條郡山手公文南村）
西川林次郎（同上）
清水秀次郎（美作國久米北條郡中塀和畝村）
湯原樂輔（備前國赤坂郡黒本村）
内田六右衛門（同國西々條郡竹田村）
片山喜太夫（備前國赤坂郡大田村）
石川武右衛門（同國勝北郡八日市村）
杉山五郎左衛門（同上）
江原甚藏（同上）
直原銀兵衛（同國同郡大戸上村下分）
直原治作（美作國久米南條郡大戸上村）
直原藤吉（同上）
神原峯之介（讃岐國多度郡善通寺村）
神原剛平（讃岐國多度郡善通寺村）
伊丹盛太郎（同上）
武田喜作（備前國和氣郡東畑村）

近藤文四郎（同國宗坂郡是里村）
同人忰　勇平
同人孫　午年
平尾多四郎
倉地長次郎（美作國英田郡奥村）
米月主計（美作國勝南郡湯郷村）
友安仙左衛門（同國西々條郡奥津川西村）
光永林兵衛
槇野澄太郎（美作國西々條郡下齋原村）
生駒吉右衛門（同國西々條郡羽出村）
小林爲之介
片岡龍左衛門（美作國西々條郡寺本村）
平吉妻　とく（同國久米南條郡小瀬村）
清介母　はつ（同上）
米戸　より（同國同郡栗子村）

同人妻　辰年
同人姪　未年
金盛彌藤次
同人忰　宇四郎
同人妻　かた
宇那木　助次郎（同國久米南條郡井口村）
光永彦平
光永義左衛門妻もむ
し　や　う（同國久米北條郡三明寺村）
菅　和平（同國東北條郡大篠村）
小林壽野
三浦清左衛門（同國西北條郡和田村）
九十郎妻　そて（同上）
金坊德藏（同國同郡塚角村）
森田定次郎（同國西々條郡井坂村）

坂田定介（同國同郡杉村）
永田國藏（同國同郡養野村）
千代藏（同上）
治三郎娘　ゆり（同國同郡境村）
武内恒介（同國同郡佐山村）

嘉永四年

矢木土佐（美作國久米北條郡西坪和村）
健藏（同上）
定五郎（同上）
山本傳次郎妻紋よ（同上）
豐八（同國同郡東坪和村）
二枝乙藏（同國眞島郡吉村）
二枝譽次
嶋太郎

友保勝左衛門（同國同郡女原村）
民次（同國同郡久米北條郡南方一色村）
安次（同國同郡中北下村）
太田卯介妻こと（備前國邑久郡大富村）
池田鶴藏（美作國西々條郡竹田村）

小坂常陸（同上）
仙五郎（同上）
二枝貝介妻いく（同國眞島郡）
虎吉（同國久米北條郡坪井上村）
幾太郎（同國同郡中坪和畝村）
二枝唯介
二枝みね
斧介

鈴木縫右衛門
大谷春太郎
二枝岩之介
杉原河内
芳右衛門
治郎吉（同國眞島郡吉村）
柳三郎（同國久米南條郡賴元村）
柴田百藏（美作國久米南條郡大谷村）
柴田辰五郎
氏平惠三郎（同國久米北條郡中拼和村）
村上虎藏
村上忠藏
藤五郎
清水幾藏
黑田伴次郎（美作國久米北條郡中拼和谷村）

山本元藏
大谷愛助
二枝茂與
唯介
宇太郎妻たき（美作國久米南條小瀨村）
吉次郎（同國久米南條郡北庄山手下村）
松本治郎兵衛（因幡國鳥取）
同人妻
水嶋彦太郎（美作國西北條郡田の村北分）
村上鹿右衛門
村上三喜藏
淺五郎（美作國久米北條郡中拼和畝村）
芳次郎
兵次郎
岸田傳右衛門

石原金次郎
さい
勘五郎妻
行部但馬（美作國眞島郡田原山上村）
豐八妻千里（同上）
新右衛門妻加津（同上）
杉鳥和泉（同國同郡奥山手村中島）
杉山良三郎（美作國久米北條郡東拼和村）
杉元峯次郎妻たか
氏平森兵衛妻ひさ
井尾德五郎（美作國久米北條郡戸脇村）
黑瀨忠左衛門（同上）
晴平（同國同郡南畑村）
赤木宗一郎（同上）
池田千代藏（美作國西々條郡宗枝村）

かを
まつ
石坂鼠十郎
杉山五郎左衛門妻かむ（同國久米北條郡東拼和村）
助太郎妻いく重（同上）
安五郎妻ひやく（同上）
栢山大和（同國眞島郡且土村）
草地馬吉
同人悴梅太郎
片山六太郎（備前國津高郡上田村）
杉田才次郎（同上）
池上金十郎（同國久米南條郡新城村）
赤木常五郎娘八重（同國同郡中籾村赤木宗一郎妻）
久山忠兵衛（同國西々條郡二の宮村）
葛原豐之助（備前國津高郡建部村）

長瀬屋文右衛門妻しな（伯耆國久米郡倉吉御城下研屋町）
青木鉄五郎（美作國西北條郡新田村）
外屋柳藏（同上）
後藤作右衛門（同國西々條郡二の宮村）
宇那木藤右衛門（同國久米南條郡井の口村）
久山休太郎
土居秀次郎
百藏（同國久米南條郡北庄山手上村）
宇那木柳藏（同國久米南條郡井の口村）
難波長三郎（備前國赤坂郡仁堀中村）
牧本要七（同國西々條郡宗寺村下分）
赤堀恒右衛門（同國同郡本村）
山田庄五郎（同國久米北條郡領家村）
濱田八百藏（同國勝北郡曾井村）
葛原新之介（備前國津高郡建部村）
檜皮屋姥よし（同國同郡西中町）
大黑屋龜三（同國西々條郡二の宮村）
倉之丞（同國久米北條郡境村）
上田瀧藏妻つる（同國津山鉄砲町）
木村近之助（同國西々條郡二の宮村）
嶋屋龜吉
七之介（美作國久米北條郡山手公文北村）
樽屋平吉（同國津山西今村）
今井辰次郎（同國同郡中籾村）
小林德次郎（美作國吉野郡田井村白木）
下山春太郎（同國勝南郡小矢田村）
石田右門（同國勝北郡奥津川西村）
杉山勝太郎（同國同郡宮部上村）
鳥越健藏妻より（同國同國松尾村）
葛原岩太郎

葛原きみ
江田幸藏（備前國津高郡建部村）
松之介（美作國久米南條郡上弓削村）
下山りう（同國同郡金井村）
田外多一郎（同國久米南條郡高尾村）
田外平七郎（同上）
押目鉄藏（同上）
村上利兵衛（同國同郡眞加部村）

嘉永五年

葛原わき
江田貢
前田主計（同國勝南郡位田村）
藤田そよ（同國西々條郡竹田村）
伴慎四郎（同上）
淺山駒之介（同國久米北條郡宮尾村）
佐藤仙五郎（同國西々上郡高山村）
矢内芳吉（同國同郡竹田村）

嘉永六年

三戸伊勢治郎妻たき（美作國久米北條郡境村）
直原佐太郎母ふさ（同上）
直原治三郎妻とよ（美作國久米北條郡境村）
三戸伊作（同上）
同人娘津根
矢沼市三郎妻もん（同上）

黑瀨喜太郎（同國同郡角石畝村）
黑瀨彌之介（美作國久米北條郡角石畝村）
太田才之介（同上）
黑瀨忠次郎（同上）
岡田万五郎（美作國久米北條郡大垪和西村）

同人悴　來吉
黑瀨福藏（同上）
廣本元吉（同上）
小林常次郎娘ゆき（同上）

年代不詳

惣市（美作國久米南條郡中粒村）
良藏（備前國邑久郡久志良村）
貞藏（同上）
万吉娘　りゑ（同國同郡福元村）
津下伊介（備前國上道郡沼村）
有道長之介（同上）
大西菊次郎（同國同郡奥浦村）

安倍周左衛門
文藏（同上）
平藏（同國同郡宗三村）
清藏
有道林藏（同國邑久郡佐山村）
出井多兵衛（同國同郡鹿忍村）
藤原忠八（同國同郡圓張村）

横山榮次郎（同國同郡佐山村）
安東豐藏（美作國勝南郡長内村）
福嶋義三郎
繁治（美作國久米南條郡原田西村）
小野田淺吉（備前國邑久郡佐山村）
内藤五三郎（備前國赤坂郡東窪田村）
片山元之一（同上）
時尾克太郎母きみ（同國同郡百田村）
幸澤琴治（美作國勝南郡稻穗村）
赤堀たけ（同上）
入江一馬之祐（同國同郡佛教寺村）
安東槌六（同國勝南郡長内村）
後藤ぬい（美作國勝南郡長内村）
中塚清左衛門（同國同郡河邊村）
佐市（同國勝南郡長内村）

小西祐介（同國同郡虫明村）
久兵衛（同國吉野郡青野村）
藪井美代三（備前國赤坂郡新庄村）
澁谷母
吉長鹿之介（美作國英田郡奥村）
津嶋左馬輔（同國同郡山口村）
龜之介妻りは（同國邑久郡虫明村）
時尾克太郎妻千代
赤堀いと（同上）
惣市妻八重（同國久米南條郡中粒村）
横林讃岐妻はま（同國同郡塚角村）
河本利三吉（備前國赤坂郡出屋村）
後藤きみ（同上）
須田慶藏（同國英田郡樫村）
葛原邑次（同國久米南條郡小原北村）

中村伊之介（備中國窪屋郡加須山村）
大河原吉右衛門（同上）
富加見民次郎（同上）
万代卯介（同國赤坂郡惣分村）
い　さ
又十郎（同上）
山本八代吉（同上）
山本よね
戸田淺吉（同國英田郡柿ヶ原村）
守部柳三（同上）
八木治郎左衛門（美作國東北條郡下横野村）
小山万五郎（同上）
廣助
椋代辰次郎（同國同郡眞加部村）
瀬嶋久米次（同國同郡）
石黒定右衛門（備前國邑久郡山手村）
大河原重吉（同上）
出井良藏（同國同郡鹿忍村）
重平喜代藏（美作國勝南郡鹽氣村）
四郎左衛門（美作國英田郡大内谷村）
田中嘉平（同國勝南郡城田村）
同人娘かよ
つゆ（美作國勝南郡奥大谷村）
森本久吉（備前國磐梨郡酌田村）
野口德之介（同國邑久郡奥浦村）
渡邊良吉（備中國賀陽郡惣社村）
宮内角左衛門（備前國赤坂郡仁堀中村）
前原讃岐（美作國西々條郡圓宗寺村）
中谷權右衛門（同國同郡土居村）
瀬嶋喜作（同上）

小林德藏
池上松之介（美作國西々條郡圓宗寺村）
庭（備中國川上郡神原村）
ひて（同上）
嘉作（同國同郡南方中村）
綱五郎（同國同郡神代村）
善治（同國同郡中北下村）
同人妻ちか（同上）
同人妻とき
棍尾和平（美作國勝南郡北瀬村）
賴則万五郎（備前國赤坂郡小原村）
賴則善左衛門（同上）
福田久三（同國磐梨郡石村）
宮内槇藏（同國赤坂郡仁堀中村）
しけ（同上）
小林李助
石原六兵衛（同國西々條郡上齊原村）
も と（同國同郡田井村之内白木）
松岡辰之亟（美作國久米北條郡山手公文北村）
源藏（同上）
銀藏（同上）
梶尾虎吉（同國久米南條郡小瀬村）
政信庄松（同國同郡塚角村）
乙倉良吉（備前國邑久郡五明村）
同人妻はる
賴則金藏（同上）
賴則治左衛門（同上）
杉元鉄五郎（同上）
圓藏（美作國久米北條郡東垪和村）
儀兵衛（同國同郡西垪和畝村）

友　藏（同上）
又　三（同上）
元　次　郎（同上）
村上良　助（同國同郡中垰和村）
小林龜　藏（同國同郡田井村白木）
米戸善右衛門妻はる（美作國久米南條郡栗子村）
杉元峯太郎（同國久米北條郡東垰加村）
池上德　藏（同上）
坪　李右衛門（同上）
藤原瀨平
河本平彌
須田龜三郎　妻（美作國英田郡樫村）
岸本初次郎（同國同郡鳥淵村）
川上紋藏（同上）
重松紋左衛門（同國同郡惣分村下分）

萬　介（同上）
常次郎（同上）
留太郎（同上）
ま　つ（備中國川上郡阿井村）
久三郎（同國同郡近似村）
磯吉妻　見　禰（同國同郡小瀨村）
杉元助太郎（同上）
青山仁左衛門（備前國磐梨郡加賀知田村）
藤原佐一郎
賀陽刑部
米戸儀三郎
山本彦　助（同國勝南郡下山村）
車田しも（同國同郡上間村）
佐々木丹次郎（備前國赤坂郡山手村）
片尾政右衛門（美作國西々條郡眞加部村）

須田吉右衛門母きく（同國英田郡樫村）
田村情彌（備前國赤坂郡矢知村）
河本覺治（同國邑久郡西幸崎村）
和田米藏（同國同郡山手公文北村）
土居東左衛門（美作國西北條郡田野村）
加古原淡路（播磨國宇根村）
南場彌五郎（同上）
南場孫次郎（同上）
牧本勘助
岡崎儀介（同國赤坂郡東輕部村）
井上三郎兵衛（同上）
眞野上總亮（同上）
內山光庵（同國同郡稗田村）
谷口九左衛門（同上）
谷口八重之介（同上）

須田桂藏母しな（同上）
中元齋之助（同國磐梨郡石村）
武中泰五郎（美作國久米北條郡打穴北村）
長谷井榮次郎（備前國兒島郡元川）
杉山助太郎
寺岡德藏（美作國西々條郡圓宗寺村）
春木岩次郎（同上）
牧本梅吉
原田利吉（備前國上道郡穢村）
長田耕右衛門（播磨國佐用郡櫛田村）
眞野源兵衛（同上）
湯淺宗四郎（同國同郡須安村）
谷口類司良（同國同郡金子村）
谷口作太郎（同上）
矢原儀太郎（同上）

船戸菊太郎（同上）
本位田掃部（同國同郡櫻山村）
藤生多藏（同上）
野村勘左衛門（同國同郡西新宿村）
官能久吉（作國勝南郡上間村）
長尾石見（備前國和氣郡瀧谷村）
文吉（同國同郡打穴中村）
喜代次郎（同國久米南條郡上弓削村）
田川伊勢（因幡國鳥取）

坂根治平（同國同郡須安村）
藤生彌右衛門（同上）
井上藤左衛門（同上）
角田覺左衛門（備中國賀陽郡福井村）
河野祐一郎（伊豫國松山城下）
池本加賀（美作國久米北條郡和田北村）
佐太郎（同國同郡境村）
久之介（同國同郡下神目村）
喜代次郎（美作國久米南條郡南畑村）

第六　御年譜

安永九年 二四四〇 一七八〇 **庚子　御歳一**

〔光格天皇、將軍家治、藩主池田治政〕

○敎祖は、十一月(戊子)二十六日(庚子)冬至日出の時を以て、備前國御野郡上中野村なる今村宮禰宜の家に御誕生。幼名權吉と稱し奉る。御父は黑住左京藤原宗繁時に御年四十、御母はつた時に御年三十七、敎祖は實にその三男なり。宗繁の君の御父を黑住左近藤原宗近と云ひ、つた夫人の御父を長瀨筑後藤原直政と云ふ、明和二年二月に御結婚ありしもの也。

天明元年 二四四一 一七八一 **辛丑　御歳二**

四月二日改元(閏五月)

〔光格天皇、將軍家治、藩主池田治政〕

天明二年 二四四二 一七八二 壬寅 御歳三
〔光格天皇、將軍家治、藩主池田治政〕

天明三年 二四四三 一七八三 癸卯 御歳四
〔光格天皇、將軍家治、藩主池田治政〕

天明四年 二四四四 一七八四 甲辰 御歳五
（閏正月）
〔光格天皇、將軍家治、藩主池田治政〕

天明五年 二四四五 一七八五 乙巳 御歳六
〔光格天皇、將軍家治、藩主池田治政〕

天明六年 二四四六 一七八六 丙午 御歳七
（閏十月）
〔光格天皇、將軍家治、藩主池田治政〕

天明七年 二四四七 一七八七 丁未 御歳八
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田治政〕

天明八年 二四四八 一七八八 戊申 御歳九

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田治政〕

寛政元年 二四四九 一七八九 己酉 御歳十

正月廿五日改元（閏六月）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田治政〕

寛政二年 二四五〇 一七九〇 庚戌 御歳十一

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田治政〕

寛政三年 二四五一 一七九一 辛亥 御歳十二

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田治政〕

寛政四年 二四五二 一七九二 壬子 御歳十三

（閏二月）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田治政〕

寛政五年 二四五三 一七九三 癸丑 御歳十四

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田治政〕

寛政六年 二四五四 一七九四 **甲寅** **御歳十五**

（閏十一月）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○元服して左之吉と御改名。

寛政七年 二四五五 一七九五 **乙卯** **御歳十六**

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○七月十一日附にて御父宗繁の君より御住居御改築の御願書あり、長屋門は一間半に四間、母屋は二間に三間半とあり。

寛政八年 二四五六 一七九六 **丙辰** **御歳十七**

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○唯だ慰みのために獵を見物するは、其の不仁に忍びずとて、獵見物の半ばより獨り御歸り遊ばされし事あり。（時尾克太郎講錄）

寛政九年 二四五七 一七九七 **丁巳** **御歳十八**

（閏七月）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

寛政十年 二四五八 一七九八 **戊午** **御歳十九**

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

寛政十一年 二四五九 一七九九 **己未** **御歳二十**

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

寛政十二年 二四六〇 一八〇〇 **庚申** **御歳二十一**
（閏四月）
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕
○中兄猪平治の君籍を脱して江戸に行かる。

享和元年 二四六一 一八〇一 **辛酉** **御歳二十二**
（二月五日改元）
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

享和二年 二四六二 一八〇二 **壬戌** **御歳二十三**
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

享和三年 二四六三 一八〇三 **癸亥** **御歳二十四**
（閏正月）
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕
○三月十一日御出立、伊勢御參宮、四月六日御歸宅。右に關する文書次の如し。

奉願

一私悴左之吉義兼而心願御座候に付此度伊勢參宮仕らせ度奉存候被仰付候は、當月十一日出立仕來月上旬に罷歸其節御屆可申出候願之通被仰付被下候は、難有奉存候以上

御野郡今村宮禰宜上中野村　黒住左京㊞

享和三年亥三月

右之通吟味仕相違無御座候則山瀬治部左衛門樣御奥書之壹通相添差上申候願上之通被爲　仰付可被爲下候已上

同村名主

右之通り御屆相違無御座候已上

市郎右衛門 印

大庄屋田中村

岩太郎

水野丈介様

（長瀬猪眞治所藏文書）

文化元年 二四六四 一八〇四 **甲子** 御歳二十五

（二月十一日改元）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○二月附にて一間半三間に、長屋御改築の内意伺書あり。（長瀬猪眞治所藏文書）

○四月八日中兄猪平治の君江戸にて歸幽、享年二十九。

○中兄歸幽のため嗣となられ右源次と御改名。

文化二年 二四六五 一八〇五 **乙丑** 御歳二十六

（閏八月）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

文化三年 二四六六 一八〇六 **丙寅** 御歳二十七

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

文化四年 二四六七 一八〇七 **丁卯** 御歳二十八

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○二月十日長女こまの君御誕生、後しか、更に後とらと御改名、（御室いく子夫人の御入嫁は此年より前なるべけれども、正確なる文書なければ誌さず）

文化五年 二四六八 一〇八 戊辰 御歳 二十九
（閏六月）
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕
○十日附にて二間に三間半の御住居手狹につき、西へ一間半に三間半の建增を御願出あり。

文化六年 二四六九 一八〇九 己巳 御歳 三十
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

文化七年 二四七〇 一八一〇 庚午 御歳 三十一
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○二月御父宗繁の君御隱居、敎祖御跡目御相續。
○二月御父宗繁の君の御用ゐ來りの御印御使用の御願書あり。

文化八年 二四七一 一八一一 辛未 御歳 三十二
（閏二月）
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕
○八月附御室いく子夫人との御結婚願書あり。いく子夫人は備前國御野郡福島村森治半次郎の從弟にして、御願書に依れば、從來眞言宗なりしが、今より敎祖と等しく、社流神道に改宗の旨記しあり。

文化九年 二四七二 一八一二 壬申 御歳 三十三
〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○八月二十八日夜、御母つたの君痢疾にて御歸幽、御歳六十九。
○九月五日日出、御父宗繁の君等しく痢疾にて御歸幽、御年七十二。

文化十年 二四七三 一八一三 **癸酉** **御歳 三十四**

（閏十一月）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○御兩親の御歸幽を哀まるゝの餘、十一月頃より御病蓐につかせらる。

文化十一年 二四七四 一八一四 **甲戌** **御歳 三十五**

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○七月二十四日次女つちの君御誕生、後なか、更に後てると御改名、時に長女こまの君八歳なり。（小方千春所藏御眞筆文書）

○去年よりの御病氣、此年に入りてもなほ癒えず、次第に重きを加へ給ひしが、遂に御蔭により御全快遊ばされたり。
○十一月（丙子）十一日（戊戌）冬至の日を以て　天照大御神を拜み給ひ、直授の　天命を稟けさせ給ふ。

文化十二年 二四七五 一八一五 **乙亥** **御歳 三十六**

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○正月小野榮三郎（備前國御野郡上中野村、安永八己亥年生、弘化二年五月十七日歸幽）神文を捧呈して入門す、是れ最初の入門者也。
（門人名所記參照）神文の文面次の如し。

神　文　之　事

一此度聖道御傳授被爲下向後益抽本心御敎相守可申候於相背者　日月星之可蒙御罰者也仍神文如件

文化十二乙亥正月　日

黒　住　先　生　様　　小　野　榮　三　郎（花押）

○六月末廣千吉等しく神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文化十三年（二四七六一八一六）丙子　御歳三十七

（閏八月）

〔光格天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○五箇年後の事を占うて䷀を得らる。

○三月附にて布教に關する左の文書あり。

書付之覺

一私儀近頃叫仕候に付諸人群集仕候節又者他え參候而執行申節も唯平生之心得而已俗談仕候義に御座候尤右演說之内に他え對して故障筋に相成申事又者自身ほこりヶ間敷事共決而申間敷候其外近邊隨身之者とも私身分之儀に付色々評判等申させ間敷候

一此已後如何樣之御方より御賴御座候而罷出候共不及其身申隨身之者たりとも兎角ほこり不申唯平常之心得に居申樣可仕候

一咀相賴申者共えは守遣し來候處私共よりは右守り出候義不相成趣兼而御定も御座候處風圖心得違不及御屆段重々奉恐入候早速御差止も可被成處思召を以祠官家より御指出被成御分に御取向御祈念（虫喰）被成下候段奉承知候且此以後（虫喰）不寄新法事堅く取扱不申樣被仰聞委細奉承知候唯正直正路之事共專用と可仕候儀毛頭相違無御座候爲其前文之通書上申候已上

文化十三年子三月　　黒　住　右　源　次（花押）

今　村　半　殿

○小林禎之介、伏見恒三郎（當新田出身、生坂藩士）、七島屋歌（備前國岡山）、橋田卯三郎（備前國御野郡濱村）、外五名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文化十四年 二四七七 一八一七 **丁丑** **御歳三十八**

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○蓑浦兵八郎（備前國岡山、寛政九丁巳年生、弘化四年十二月十七日歸幽）、七嶋五郎右衛門（備前國岡山、寛政五癸丑年生、嘉永五年十一月二日歸幽）、外十名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文政元年 二四七八 一八一八 **戊寅** **御歳三十九**

（四月二十二日改元）

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○福田丑之介（岡山藩士）神文を捧呈して入門す。

○七島屋千世（備前國岡山）、外八名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文政二年 二四七九 一八一九 **己卯** **御歳四十**

（閏四月）

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○三女さのの君御誕生、後とめと御改名。

○古田正長（岡山藩士、五百五拾石、通稱雄次郎、寛政三年辛亥年生、嘉永三年十月廿六日歸幽）外二名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文政三年 二四八〇 一八二〇 **庚辰** **御歳四十一**

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○二月吉日附にて七島屋千世の神文あり、神文の文面他のものと異る。

○尾上仲裕（岡山藩士百三拾石、通稱長三郎）神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文政四年 二四八一 一八二一 辛巳 御歳四十二

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○四月附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第四號御書翰參照）

○六月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第六號御書翰參照）

○九月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二四五號御書翰參照）

○十一月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第四一號御書翰參照）

○十二月朔日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第八號及第一五二號御書翰參照）

○十二月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一〇號御書翰參照）

○石尾乾介（岡山藩士大組百四拾石、安永四乙未年四月二十五日生、安政六年十一月十七日歸幽太郎と改む、享和二壬戌年生、明治七年十一月十九日歸幽）、青地藤四郎（岡山藩士大組百貳）、菱川銀三郎（岡山藩士引廻參百石）、淺野瀬兵衛（岡山藩士大組五百石）、長瀬佐三次（備前國御野郡田中村、後岩石尾善左衛門（拾石、石尾乾介父）、（門人名所記參照）神文の文面には次の如きものあり。

神文

忝天地同躰之本心不亂樣可致修行者也

文政四辛巳年十一月

黑住先生公

青地藤四郎（花押）

文政五年 二四八二 一八二二 壬午 御歳四十三

（閏正月）

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○正月十八日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一號御書翰參照）

○閏正月十二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二號御書翰參照）

○二月二十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書御三號第書翰參照）

○四月二十二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第五號御書翰參照）

○六月二十一日長男佐野吉の君御誕生、後誠彌宗信と御改名。

○七月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二四四號御書翰參照）

○八月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第七號御書翰參照）

○今村梶馬藤原勝忠九十の年賀に當りて『千早ふる神のいかきに年をへしま

つもろともに老やわすれん』の御歌あり。（教書第一〇三號御歌參照）
○河上市之亟（岡山藩士、寛政七乙卯年七月七日生、文久二年八月二十二日歸幽）入門す。（河上市之亟編、教祖御年譜）
○福田佐代、野呂俊平、古田正長母、外十二名、神文を捧呈して入門す。
（門人名所記參照）神文の文面には次の如きものあり。

神文之事

神明に背間敷候已上

文政五壬午年十二月二日　　古田正長母

黒住先生様

文政六年 二八二三 一八四三 癸未 御歳四十四

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○三月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一六號及第一五七號御書翰參照）
○五月一日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一一號御書翰參照）

○六月一日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一四號御書翰參照）
○六月八日より同二十八日まで御病氣。（教書第九九號第一〇八號御書翰及『花鳥風月』第五七號御書翰參照）
○七月十二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一〇八號御書翰參照）
○七月十五日附古田雄次郎、石尾乾介宛御書翰あり。（教書第九九號御書翰參照）
○八月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一五號御書翰參照）
○十一月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一二號御書翰參照）
○十二月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第九號御書翰參照）
○十二月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三三六號御書翰參照）
○十二月十二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一七號御書翰參照）
○石尾乾介妻幸、植田ゆか、三澤龜次郎、小野三郎兵衛（備前國御野郡上中野村）、外三名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文政七年 二四八四 一八二四 甲申 御歳四十五

（閏八月）

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○正月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一八號御書翰參照）

○三月十二日御出立御上京、二十日吉田殿に於いて禰宜職繼承の御裁許を頂かれて左京と御改名。夫より伊勢に御參宮ありて、四月九日御歸宅遊ばさる。（教書第一號參照、及河本鎭三所藏文書）

○五月附にて『神文の事　一奉祈誓二度奉蒙神宣云々』の御文書あり。

○九月千世（七島屋千世、文政元年入門、文政三四年頃歸幽）の爲に靈神號を神祇管領長に御請願ありて幸光靈神と御許可あり。

○九月一日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第四九九號御書翰參照）

○十月一日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三九號御書翰參照）

○十月十三日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二一號御書翰參照）

○十一月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第四二號御書翰參照）

○十二月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三一號御書翰參照）

○一森彦六（岡山藩士馬役百貳拾石、文政八年正月彦六郎と改名、文化四丁卯年生、安政三年八月廿九日歸幽）、今村美歌、藤原千年（今村權頭、寛政九丁巳年生、弘化二年五月五日歸幽）、藤原正木、外一名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

文政八年 二四八五 一八二五 乙酉 御歳四十六

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○長女こまの君、年十九にして備中沖新田村吉右衛門弟佐藤長次郎と婚せらる。長次郎ば眞言宗にして、其の媒介者は白鬚宮祠官長瀨靱負なり。

○七月二十三日より千日參籠遊ばさる、年末までに百五十五夕御參籠。

○十一月より翌々年三月に亘り伊勢講あり、其帳簿に記入せられたる姓名次の如し。

先生樣　花屋濱　野鉄屋龜次

榮三郎　物四郎　長次郎　高田屋　紅屋
七島屋　三郎兵衛　佐三次　煙草屋　山田屋
安左衛門　權　頭　吟次兵衛　久三郎

文政九年 一八二六（二四八六） 丙戌 御歳四十七

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○前年よりの千日參籠の御繼續、本年は三百十九夕御參籠。
○四月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二〇號御書翰參照）
○五月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第一三一號御書翰參照）
○六月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二五號御書翰參照）
○七月一日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第四〇號御書翰參照）
○八月二日、去年御結婚ありし長女こまの君の夫長次郎歸幽。
○八月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二六號御書翰參照）

○八月晦日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二四八號御書翰參照）
○九月十五日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三八號御書翰參照）
○十一月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三二號御書翰參照）
○十二月二十七日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二二號御書翰參照）
○石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二七號御書翰參照）

文政十年 一八二七（二四八七）（閏六月） 丁亥 御歳四十八

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○引續いて千日參籠、本年は三百十九夕御參籠。
○正月一森彦六郎宛御歌あり、（教書第九三號御歌參照）
○三月一日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第一二七號御書翰參照）
○四月より翌年七月に亘りて伊勢講あり、其帳簿に記入せられたる姓名次の如し。

先生様　岡や源兵衛　榮三郎　鉄屋平八郎　紅屋與介　七島屋五郎右衛門　卯三郎　善吉　龜次郎　安左衛門　金次郎　三郎平　吉右衛門　惣四郎　清吉　山田屋仁左衛門

○六月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六〇號御書翰參照）
○七月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第一三〇號御書翰參照）
○八月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第七八號御書翰參照）
○十月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二九號御書翰參照）
○十月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三七六號御書翰參照）
○十月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第二二九號御書翰參照）
○十月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第四七號御書翰參照）
○龜山平六（備前國御野郡長已村、享和三癸亥年生、安政三年正月十日歸幽）、外二名神文を捧呈して入門す。
（門人名所記參照）

文政十一年　二八八四　一八二八　戊子　御歳四十九

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊政〕

○正月御參籠五夕、是にて文政八年より通計七百九十八夕の御參籠となる。以上は現存せる參籠日數控によりて精密に其の日數を計算したるものなれども教書第三十五號の御書翰による時は、なほ正月以後四月まで引き續いて御參籠遊ばされ、『四月二十五日より同二十九日まで晝夜つめ斷食にて執行仕候云々』とあるが、恰かも千日參籠御滿願の時かと拜察せらる。

○二月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二四六號御書翰參照）
○三月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六八號御書翰參照）
○五月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三五號御書翰參照）
○六月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三七號御書翰參照）
○六月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三四號御書翰參照）
○七月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三七七號御書翰參照）
○八月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第七〇號御書翰參照）

○八月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二四七號御書翰參照）
○九月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二五〇號御書翰參照）
○瀧川彌右衛門宛御書翰あり。（教書第三四八號御書翰參照）

文政十二年 二四八九 一八二九 己丑 御歳五十

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○二月十三日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二四八號御書翰參照）
○三月七日附にて『御祓留帳』なるものあり。之によれば三月八日より二十九日までに一万七千三百五十本、四月朔日より晦日までに一万九千七百四十本、五月朔日より二十二日までに九千五百拾本の御祓を御奏上遊ばさる。
○三月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第五〇〇號御書翰參照）

天保元年 二四九〇 一八三〇 庚寅 御歳五十一

十二月十日改元（閏三月）

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○閏三月十六日附御書翰あり。（教書第三六六號御書翰參照）
○閏三月より十箇年の御豫定にて毎月百社參を御思ひ立ち遊ばされ、此年十箇月之を御執行遊ばさる。
○六月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第二三七號御書翰參照）
○六月上旬祠を造りて先祖代々の靈神をまつらる。中に長兄猪之助の君の靈神もあり。
○八月四日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第五〇號御書翰參照）
○八月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第四九號御書翰參照）
○八月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三四〇號御書翰參照）
○九月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第二二五號御書翰參照）
○九月二日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書御三四一號御書翰參照）

○十月十四日附一森彦六郎宛御書翰あり、（教書第一三六號御書翰參照）
○秋頃福田氏難有き御蔭を戴く。（教書雜第三號御書翰參照）
○秋頃『天てらす神の御心人心ひとつになれはいきとふしなり』の御歌あり（教書雜第三號御書翰參照）
○十一月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第三〇號御書翰參照）
○橋田卯三郎（備前國御野郡濱野村）外二名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）橋田卯三郎は再神文なり。

天保二年 二四九一 一八三一 辛卯 御歳五十二

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○天保元年御思ひ立ちの毎月百社參、此年は欲なく御執行遊ばさる。
○二月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六三號御書翰參照）
○三月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六七號御書翰參照）

○三月十六日附石尾乾介宛御書翰あり。（教書第二四九號御書翰參照）
○三月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第二九六號御書翰參照）
○四月三日御出立伊勢御參宮。
○四月八日附御書翰あり。（教書第三一四號御書翰參照）
○岩田金十郎、宮崎新吉、神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保三年 二四九二 一八六二 壬辰 御歳五十三

（閏十一月）

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○天保元年御思立の毎月百社參、此年は七月より八月に亘る御大病にも係らず、正月より閏十一月まで毎月欲なく御執行遊ばさる。十二月以後御執行ありしや否やは、文書には誌しあらず。故に文書の上にては三十四箇月之を御執行遊ばされし事明なり。

○七月七日より八月二日まで御大病に罹らせらる。
○閏十一月十八日附大森武介宛御書翰あり。（教書第二一七號御書翰參照）
○閏十一月十八日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第二三〇號御書翰參照）

天保四年 二四九三 一八三三 癸巳 御歳五十四

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○三月十三日附紅屋與介宛借用證文あり。（教書雜第四六號參照）
○三月十六日御出立伊勢御參宮、四月十一日御歸宅。（辰馬悦叟所藏文書）
○三月、御兩親の爲に靈神號を吉田殿に奉願遊ばされ、磐根靈神永壽靈神と御許可あり。
五月、青地藤四郎の曾祖父青地藤四郎源守忠のために靈號を吉田殿に奉願遊ばさる。
○六月二十三日附石尾乾介より教祖宛の書翰あり。左の如し。

御用急き

黑　住　左　京　様　　石　尾　乾　介

尚〳〵今日は御様子御宜方にて彌有かたく存上候
以手紙申上候彌御機嫌能被爲入奉恐賀候然者　西御丸様御不例に付尊君様へ御ましなひ并御祈禱被仰付候間早々　西御丸へ御出勤被成候様私より御掛合可申上旨今枝忠左衛門より申聞候間左様思召何分一刻も早く御出勤被成候様との事に御坐候私も出勤仕居申候間得尊顔萬々何事も可申上候　西御丸御裏式臺へ御出被成御申込被成候へは早々御通し申上候手都合に仕置候急き用事斗申上候何事も得尊顔可申上候以上

六月廿三日

尚〳〵御上下にて御出勤可被成と奉存候誠に〳〵　天照太神様御開運の御時節到來扨々難有奉存候以上

○六月二十六日池田齊政公逝去、逝去後十一月よりなほ其の靈の爲に御祈念遊ばさる。

○七月三十日『天滿宮畧由來』の御手本を寫了遊ばさる。
○大森武介（備前國和氣郡尺所村、寛政四壬子年生、嘉永元年十月二日歸幽）秋山勝之介（備前國和氣郡和氣村）外三名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保五年 二八三四 一四九四 甲午 御歳五十五

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○二月、佐々圓之介江戸詰に付、無難に相勤むる樣、御祈禱守護の御守札を吉田殿に奉願遊ばさる。
○三月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第七二號御書翰參照）
○三月下旬『一休禪師法語』寫本の終に『身の限り有とおもふも迷ひにて來らすさらぬ道を願はん』『天地は廣き物かとおもひしに我一心の中に有りける』の二首の御歌をよみ給へり。（教書第一三〇號及第一三一號御歌參照）
○三月附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第三〇一號御書翰參照）

○四月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第七一號御書翰參照）
○五月晦日附にて『道連年覺留』なるものあり。之に依れは、池田丹波守（池田家分家生坂藩主）、池田勘解由（中老四千石）、池田中務少輔（池田家分家生坂藩主丹波守養子）、池田出雲（池田家老三萬石）、古田雄次郎（岡山藩士五百五拾石）、青地藤四郎（岡山藩士引廻三百石）、山田彌太郎（岡山藩士三百石）、石尾乾介（岡山藩士百四拾石）、万代段右衛門（岡山藩士百六拾石）、荒尾清左衛門（岡山藩士旗奉行三百石）、以下三百十一人の生年十二支名記入しあり。
○又右『道連年覺留』に依れは、一月に千百八十、二月に一萬八千四百、三月に三千六百、五月に六千三百五十、八月に二百、十二月に千四百、其の他時尾克太郎取次の分千四百、三田左兵衛取次の分六千三百、宮内河本取次の分千、忠兵衛取次の分五千、村中渡の分三十一、合計四萬四千八百六十一の御守札を一年間に御出し遊ばされたる事となる。又御洗米包の數は約九千百五十記入しあり。
○又右『道連年覺留』には、金山寺味噌、納豆、時疫の藥、解熱の藥、毒消の藥、等の製法傳寫しあり。

○郷司七右衛門（岡山藩士大筒役二百石、郷司茂左衛門父）、郷司茂左衛門（岡山藩士大筒役二百石、文化五戊辰年生、元治元年八月七日歸幽）外二名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）神文の文面左の如し。

神文之事

一此度天地自然之御道御傳授被爲下忝仕合奉存候向後抽本心御教可致執行者也仍而神文如件

天保五年午二月

郷司七右衛門勝興（花押）
同人妻藏
同人娘君
同茂左衛門勝義（花押）

黑住先（破損）

天保六年 二四九五 一八三五 乙未 御歳五十六

（閏七月）

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○二月、次女なかの君二十二歳にして、備中國賀陽郡宮内吉備津宮社家櫻井梶馬の子喜聞太と婚せらる。

○三月朔日附にて二間に四間半の長屋普請を御願出あり。

○三月十九日頃より四月三日頃に亘りて伊勢御參宮。（教書雜第二四號參照）

○右の伊勢御參宮日誌には、道々御祓として、十八日千度、十九日千度、二十日千度、二十一日千度、二十四日二千度、二十五日千度、二十八日二千度、二十九日千五百度、朔日千五度、二日四百度、三日千六百度、と記入しあり。

○五月下旬より岡山西大寺町紅屋與介の病氣平癒の御祈念あり、御祓の數七千百六十。與介の病氣平癒せしときの御歌に、『千早振神世はしらす今の世にかゝるためしはよもや有まし』とあり。（教書第一九一號御歌參照）

○教祖、曾て村中困窮につき、門人亥年生れの武士某より米百俵を借り出し

て、無利息にて村民一統へ口入遊ばされたる事あり。然るに右武士某の取立に就いて行違を生し、村民之を教祖に訴ふ。教祖乃ち村民と武士某との爲に、圓滿の解決を見むことを、御心願遊ばさる。恰かも七月なり。

○七月『明君享保錄』を寫了遊ばさる。

○宗信の君病あり。（河本務より聞きたる森住豊次郎の談）

○佐藤吉藏（備中國都宇郡茶屋町）神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保七年 二四九六 一八三六 丙申 御歳五十七

〔仁孝天皇、將軍家齊、藩主池田齊敏〕

○正月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第五九號御書翰參照）

○正月吉日附、御初穂覺留帳の表紙に、『有かたきけふはまれなる天社日こゝろにちりももとめさらまし』『露霜にむすへるつみのくやしさをおもひとくこそ

朝日成けれ』の二首の御歌書きつけあり。（教書第三三號及第一〇九號御歌參照）

○二月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第四四號御書翰參照）

○二月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六九號御書翰參照）

○六月十五日附にて左の文書あり。

奉　祈　上

奉祈者也我賤も自然天命を奉受夫より彌以御國法者不及申萬事天命に不奉背候所此頃不斗承り候得は人々長く道に隨ひ候所を　上よりふしんに思召れ候由恐入たる次第奉存候仰願はくは誠正道たる所　御上御疑ひ晴れ候樣一偏奉祈願上候恐惶謹言

時に天保七申六月十五日　　黑住左京藤原宗忠

天　神　地　祇

八　百　万　神

○六月附にて岡山西大寺町山崎與介の爲に靈號を今村權頭に御願あり。（教書第四八七號御書翰參照）

○七月『板倉政要記』を寫了遊ばさる。

○十二月附にて北長瀬村德右衛門宛借用證文あり。（教書雜第五〇號參照）
○十二月附にて龜山平六郎宛借用證文あり。（教書雜第四一號參照）

天保八年 二四九七 一八三七 丁酉 御歳五十八

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田齊敏〕

○二月鄕司茂左衛門宛御歌あり。（教書第九一號御歌參照）
○三月十五日附にて『奉祈願　天保八酉三月十四日夜云々』の御文書あり。
○三月十六日附大森武介宛御書翰あり。（教書第二一三號御書翰參照）
○五月二日附石田鶴右衛門宛御書翰あり。（教書第二六八號御書翰參照）
○十二月廿九日附にて輕部久吉宛借用證文あり。（教書雜第四九號參照）
○十二月附にて大森武介宛借用證文あり。（教書雜第三九號參照）
○志賀淳平（備前國御野郡南方、天明六丙午年生、安政四年七月十四日歸幽）、那須三平（備前國邑久郡牛窓村、安永五丙申年生、天保十三年正月十三日歸幽）、那須喜藏（備前國邑久郡牛窓村、文化七庚午年生、嘉永元年十二月廿八日歸幽）、神崎いわ（備前國和氣郡和氣村かめ屋）森文左衛門（備前國赤坂郡河本村大庄屋、寛政八丙辰年生、安政六年七月二十三日歸幽）、森龜次郎（同上、文化七庚午年生、明治十五年十二月九日歸幽）、外二十名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）神文の文面には次の如きものあり。

神文之事

掛巻久母惶伎
日大御神御直傳鎭魂之大道に入門仕御講說傳授共被爲成下御神恩冥加至極難
有仕合奉存候然る上者丹誠を以ゐ御神敎相守生涯變心仕間數候若於相背可蒙
罰者也仍而神文如件

天保八丁酉年二月十一日

黑住先生樣　志賀淳平（花押）
神文之事　那須三平
一天地日月同たいの一しんみたれ不申候樣向後本心のぬきん出執行仕るへく
者也爲後神文如件
天保八年酉三月　神崎いわ女（拇印）
黑住先生尊

天保九年 二四九八 一八三八 戊戌 御歳五十九

（閏四月）

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田齊敏〕

○正月吉辰日附、日記萬覺帳の表紙の裏に、『何こともみな天命とおもひなばた、有かたき斗成ける』の御歌書きつけあり。（教書第一一八號御歌參照）

○三月二十三日岡山藩士松尾長三郎醉狂し、岡山城下に於いて二十三四人の人を傷づけ、更に中之町御門にて教祖に斬りかゝらんとせしに、教祖の御言葉によりて鎭まりし事あり。（池田家履歷畧記續集後篇卷の三參照）

○閏四月五日附御書翰あり。（教書第三〇二號御書翰參照）

○閏四月二十八日、『執行口の心をよめる』として、『向ふことゝみな御影かとおもひなはねてもさめてもありかたひかな』の御歌あり。（教書雜第五號參照）

○五月朔日、河上市之丞書を奉りて孝の道を聞く。

○九月十七日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第八二號御書翰參照）

○十月二十八日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第八三號御書翰參照）

○十一月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第三六一號御書翰參照）

○十一月十八日附青地藤四郎宛借用證文あり。（教書雜第三八號參照）

○紅屋かめ（備前國岡山西大寺町）、紅屋與介（同上、文化元甲子年生、文久三年四月廿四日歸幽）、神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保十年 二四九九 一八三九 己亥 御歳六十

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田齊敏〕

○正月元日占うて ䷀ 五及 ䷁ 六を得給ふ。（教書雜第二號參照）

○正月十一日占うて ䷊ 二を得給ふ。（教書雜第二號參照）

○二月附にて大森武介宛借用證文あり。（教書雜第七號參照）

○二月、長女しかの君を櫻井梶馬役介人に遣はされむことを御願あり。

○七月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第一三四號御書翰參照）

○七月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六六號及第一五三號御書翰參照）
○九月十五日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第四五六號御書翰參照）
○九月十七日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六五號御書翰參照）
○十一月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第七五號御書翰參照）
○十一月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書四八號御書翰參照）
○『歳暮六十の暮よめる』として『出る日をおのか姿とおもひなは重ねし年も苦しからまし』の御歌あり。（教書第六六號御歌參照）
○天保九年の本暦の中に、『おしむへし去年迄人のちようほう成こよみ云々』の御文あり。（教書雜第四號參照）
○末廣彦之進（岡山藩士、生年月日不詳 安政三年五月二十日歸幽）、岡多兵衛（岡山藩士大組七拾貳俵）、外七名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保十一年 一八四〇（二五〇）庚子 御歳六十一

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田齊敏〕

○正月二十八日附森文左衛門宛御書翰あり。（教書第二〇六號御書翰參照）
○正月晦日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一七六號御書翰參照）
○正月晦日附田中村岩太郎宛御書翰あり。（教書第二六六號御書翰參照）
○二月二日御還暦の御祝あり。正月吉日附『宗忠六十一祝年到來物留帳』によれば、左記六十四氏よりの祝儀到來物誌しあり。

古田氏　石尾氏　松井氏
花尻太田氏　濱野村卯三郎　末廣氏
青地氏　尺所大森氏　同所秋山氏
大供高須氏　田中岩太郎　牛窓喜藏
荻田氏　御牧氏　當新田恒三郎
長谷川氏　西古松清介　新保のぼ、
矢坂久五郎　正三九　瓦師六左衛門

同　利吉　川上氏
山田氏　同内八重　秦氏
中仙道　長瀬本家　河本森文左衛門
村の　森安治右衛門　村の市三郎
乙吉　森安圓吉　善吉
大供　田の口や元右衛門　村の仁平　嘉介　今村輕部氏
一森氏　大供金次郎　瓦師錢屋
笹井繁次　村のはな　前の小野
七しまや　五郎右衛門　宮内櫻井氏　紅屋與介
早川氏　兒島梶岡出屋
白石平七郎　大道寺治介　たばこや金十郎
大供傳藏　かしまや嘉吉　村のこの
茶屋町　玉屋吉藏　今村氏　今村長太郎
大黒屋　鉄屋平八郎　同林之介
東　半兵衛　新田三番深藏　辰巳新田龜山平六
鉄治郎

○二月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六四號御書翰參照）
○二月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第二九五號御書翰參照）
○二月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第一一一號御書翰參照）
○三月十五日附那須喜藏宛御書翰あり。（教書第三五三號御書翰參照）
○三月十七日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第七四號御書翰參照）
○六月二十二日附森文左衛門宛御書翰あり。（教書第二〇二號御書翰參照）
○八月二十五日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一六四號御書翰參照）
○十月四日封を奉伺ありて、離下離上（六爻變）孔子、震下離上（初爻變）宗忠、巽下震上（二爻變）釋迦、を得給ふ。（教書雜第二六號參照）
○十二月二十八日附龜山平六郎宛借用證文あり。（教書雜第四〇號參照）
○十二月附末廣彦之進宛金錢取引證文あり。（教書雜第四三號及第四四號參照）
○中村權太夫（備前國津高郡紙工村、寛政十一巳未年生、安政四年五月六日歸幽）、松田孫七郎（生坂藩士）、田口愛三（岡山藩士二百石、寛政十戊午年生、明治元年以後歸幽）、外十名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保十二年 二五〇一 一八四一 辛丑 御歳六十二

（閏正月）

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田齊敏〕

○閏正月晦日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一六七號御書翰參照）

○二月二十五日御隱居につき長男宗信の君御跡目御相續、時に御年二十なり。

○六月二十七日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一七五號御書翰參照）

○九月十五日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一九〇號御書翰參照）

○十二月二十四日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一九五號御書翰參照）

○櫻井喜間太（備中國賀陽郡宮内吉備津宮社家）、外五名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保十三年 二五〇二 一八四二 壬寅 御歳六十三

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○正月八日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一六二號御書翰參照）

○三月吉日附にて四才亥之歳男、二才丑之歳女の疱瘡平癒の御祈念書あり。

○三月十六日附尾關丈五郎宛御書翰あり。（教書第一四一號御書翰參照）

○三月十六日附田口愛三宛御書翰あり。（教書第一〇四號御書翰參照）

○三月田口愛三宛御歌あり。（教書第九二號御歌參照）

○四月九日附にて左の御願文あり。

乍恐伊勢

天照皇太神樣へ奉心願

石田孫一郎枠子之歳當年三才に相成候得共一向智惠付不申夫故兩親之なけき無云斗候もつたひなくも廣大成奉蒙御憐何卒人なみの者にちへ付候はゝ無此上難有仕合に奉存候此段奉祈者也

右御禮には三年代參立可申其上本人も追而直參仕らせ候仍而心願奉懸者也

時に天保十三年寅四月九日　祭主　黑住宗忠

伊勢二皇太神宮樣

○四月十六日附田口愛三宛御書翰あり。（教書第一〇三號御書翰參照）
○五月二日附尾關丈五郎宛御書翰あり。（教書第九六號御書翰參照）
○五月十六日附尾關丈五郎宛御書翰あり。（教書第九四號御書翰參照）
○六月二日附尾關丈五郎宛御書翰あり。（教書第九五號御書翰參照）
○八月二日附尾關丈五郎宛御書翰あり。（教書第三四五號御書翰參照）
○八月二十日附山田彌太郎宛御書翰あり。（教書第九八號御書翰參照）
○十二月二日附尾關丈五郎山田彌太郎宛御書翰あり。（教書第三四六號御書翰參照）

○山田彌太郎（岡山藩士三百石、享和元辛酉年生、明治元年七月一日歸幽）、尾關丈五郎（岡山藩士四百石、文化三丙寅年生、嘉永二年二月十一日歸幽）、神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

天保十四年　二五〇三　一八四三　癸卯　御歳六十四

（閏九月）

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○二月十六日附山田彌太郎宛御書翰あり。（教書第九七號御書翰參照）
○二月今村宮禰宜職を佐野吉（宗信）の君に讓らむことを御出願遊ばされて許可あり。
○二月、佐野吉の君、教祖御用ゐ來りの御印御使用の願出あり。
○佐野吉の君三月二十八日御出立、伊勢御參宮、四月二十一日御歸宅。
○四月十二日附御書翰あり。（教書第二九八號御書翰參照）
○六月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第六一號御書翰參照）
○六月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第一三三號御書翰參照）
○六月九日、某、教祖の現下の道の勢を占うて䷀を得たり。
○六月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第五二號御書翰參照）
○八月二十七日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第八六號御書翰參照）

○八月吉辰　志賀淳平の開運を御心願遊ばさる。
○九月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第五三號御書翰參照）
○閏九月二日附一森彦六郎宛御畫翰あり。（教書第七七號御書翰參照）
○閏九月十三日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第四六號御書翰參照）
○閏九月二十九日附中村權太夫宛御書翰あり。（教書第二七〇號御書翰參照）
○閏九月晦日附御書翰あり。（教書第一一六號御書翰參照）
○閏九月及十月附にて御講釋日割あり。（教書雜第八號參照）
○十月二十八日、午年生れの安產を御祈願あり、御禮には明春御參宮代參の旨を御誓遊ばさる。
○黑住正三九（備前國御野郡矢坂村、文化五戊辰年生、萬延元年六月七日歸幽）、宮田正翁（備中國都宇郡撫川）、赤木久治（岡山藩士）、矢杉久吉（岡山）、窪津慶介（岡山藩士）、波多野好樂（池田伊賀家老七百石、通稱佐仲）、星島宮（備前國兒島郡天城星島良平母、文化十三丙子年十一月生、安政四年十月二日歸幽）、村瀨岩三郎（岡山藩士四百五拾石）、寒川六兵衛（岡山藩士、天明五乙巳年二月三日生、嘉永四年十一月八日歸幽）、下野儀作（岡山藩士）、野村庄兵衛（岡山藩士、生年月日歸幽年月日不詳）、蜂

谷俊造（享和元年辛酉年生、安政五年九月九日歸幽）、藤原東作（岡山藩士）、野津平八（岡山藩士）、外三十五名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）神文の文面には次の如きものあり。

神　文　之　事

掛麻久母惶伎
日大御神御直傳鎭魂之大道に入門仕御講說御傳授共被爲成下御神恩冥加至極
難有仕合奉存候然る上者以丹誠堅御神敎相守生涯變心仕間敷候若依相背者可
蒙御罰者也仍神文如件
天保十四年癸卯十月十七日
黑　住　先　生　樣　　赤木久治正修（花押）
星嶋良平（岡山藩士）入門す。（星島宮の入門、伊勢講連名帳、及日碑に依る）

弘化元年 二五〇四 一八四四 甲辰 御歳六十五

十月二日改元

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○正月より七年間に亘りて伊勢講始まる、『伊勢講連名帳』に記入せられたる百二十人の姓名次の如し。

石尾喜六郎　同人妻　梶田庄右衛門
村瀬岩三郎　同人内　寒川六兵衛
野津平八郎　野村庄兵衛　伊澤市郎兵衛
松尾所左衛門　宇治孝治　高取左源次
難波次郎右衛門　窪津敬介　佐藤幸右衛門
（代因幡屋亦五郎）　蜂谷俊造　山崎寅吉
三日市村安五郎　同村圓之介　同村安兵衛
同村作兵衛　同村源之介　同村利兵衛
同村六左衛門　上中野村喜又　七日市村勇介

二日市町島屋定吉　包松村鶴吉　黒住先生
同人妻　同佐野吉　大森武助二人
秋山勝之助二人　今中兵助　淺沼惣次郎
志賀淳平　同安之介三人　寺見平次兵衛
七日市村八之介　梶坂清兵衛　矢杉久吉
煙草屋金十郎　安田又左衛門　田の口屋元右衛門
西村官兵衛　田中八介　和田勘右衛門
堀市郎　乙倉惣三郎　赤木久治
林平太　長谷川瀬介　大野十兵衛
岡崎廣之進　野上三百三　末廣彦之進
鉄屋平八郎　七島屋五郎右衛門　郷司茂左衛門
同人妹　岡多兵衛　同人内
赤坂郡新庄村　某　鹿瀬村竹次郎　寺本助之進
（代宇治孝治）　尾關丈五郎　福田留藏
大供村傳右衛門　當新田村常三郎　櫻井喜間太

東條又之丞母　因幡屋又五郎
中仙道村平六郎　櫻町備中屋仁三郎（代因幡屋又五郎）
二日市村龜吉　石田鶴右衛門　米屋五兵衛
万倍屋忠兵衛　一森彦六郎母
瓦町魚屋彖吉　藤井牧太
妹尾幸右衛門　二日市村利吉
福田村慶治　太郷万治
下野儀作　矢坂久八郎（鹽飽大工壽介）
矢坂正三九郎　藤原東作
松崎新田熊之介　鈴木松三郎　平松與平次
太田要次郎　徳田茂平　宇治龜六
厚木平彌　奥村圓左衛門　末吉廣平次
中屋五兵衛　作州勘藏　石關赤穗屋恒太郎
同大戸助九郎　作州百々村七郎次　同馬伏淳助
同周佐元之介　今村權頭
二日市村六左衛門　星島牧三郎
大工藤吉　竹村屋利吉
妹尾源太夫
藤田與一郎　川崎町荒物屋久三郎

八部安九郎母　同人娘　森下重兵衛
田中村岩太郎　大供（かじや）吉十郎　作州中粗村惣市

○四月、佐野吉の君より御姉さのの君を江木翁介へ役介人に遣はされ、澁川圓之進と婚せらる。

○四月十六日附一森彦六郎宛御書翰あり、（教書第一二二號御書翰參照）
○六月附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第一二〇號御書翰參照）
○六月晦日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一八九號御書翰參照）
○八月二日附一森彦六郎宛御書翰あり、（教書第二三一號御書翰參照）
○九月二日附一森彦六郎宛御書翰あり。（教書第二二七號御書翰參照）
○九月十五日附一森彦六郎宛御書翰あり、（教書第二二八號御書翰參照）
○石田六左衛門（備前國御野郡二日市村、生年月日不詳、安政二年八月十一日歸幽）、三田忠兵衛（備前國御野郡大供村）、秦久之進（岡山藩士城代浮組七拾俵）、平松與平次（岡山）、香川七太夫（岡山藩士大組百五拾石）、中山常次郎（備前國邑久郡大ヶ島村大庄屋、享和二壬戌年生、安政六年十二月十九日歸幽）、中山鑄吉（備前國邑久郡大ヶ島村、生年月日歸幽年月日不詳）、今田宋次郎（備前國邑久郡下山田村、寛政六甲寅年生、安政三年二月一日歸幽）、武田一三（備前國邑久郡大ヶ島村、諱は茂冬五峰或は白山と號す醫家なり）、

時尾克太郎（備前國邑久郡百田村）、小原助左衛門（備前國岡山）、森下龜次郎（岡山藩士諱は景端）、布施鮓樂（岡山藩士通稱藤五郎）、直原助九郎（美作國久米南條郡大戸村後伊八郎と改名）、森下重兵衛（岡山藩士森下龜次郎父）外十八名神文を捧呈して入門す、（門人名所記參照）

弘化二年 二五〇五 一八四五 乙巳 御歳六十六

〔仁孝天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○二月朔日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一七九號御書翰參照）

○三月四日御出立伊勢御參宮、四月中旬御歸宅。

○四月附三澤佐兵衛宛御書翰あり。（教書第二七四號御書翰參照）

○五月六日附龜山平六郎宛借用證文あり。（教書雜第四二號參照）

○五月八日長瀬直政忰に嫁せられたる御姉熊の君御歸幽、享年七十四。

○五月十六日附御書翰あり。（教書第一一七號御書翰參照）

○五月二十日附傳左衛門宛御書翰あり。（教書第二八七號御書翰參照）

○五月附御書翰あり。（教書第四九四の一六號御書翰參照）

○六月附三澤佐兵衛、太田勇介宛御書翰あり。（教書第二七三號御書翰參照）

○九月十九日晩占うて ䷅ を得らる。（教書雜第二七號參照）

○九月二十一日、宗信の君備中國賀陽郡高松村林梶と御結婚、梶の君時に年十六。（梶の君の直話）

○十月十二日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一八六號御書翰參照）

○十一月一日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第一七八號御書翰參照）

○十一月二十二日河上市之丞より忰易之介病につき祈念を願はる、市之丞時に年五十一、易之介時に年八、其御祈念依賴狀は痛切を極む。

○厚木彌平（岡山藩士）、奥村圓左衛門（岡山藩士）、横林讃岐（美作國久米南條郡）、湯淺薩摩（美作國東北條郡社家後に松岡清見と云ふ）、三澤佐平衛（岡山藩士大坂藏屋敷定目付生年月日、歸幽年月日不詳）、西村齋介（美作國勝南郡稻穗村）、岡讓五郎（備前國岡山天城屋敷）、下村六左衛門（岡山藩士）神崎佐四郎（備前國赤坂郡新庄村）、草野才介

（岡山藩士）、草野仁八郎（岡山藩士）、外五十一名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

弘化三年 一八四六 丙午 御歳六十七

（閏五月）

〔孝明天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○三月八日備前兒島沖に於いて難船に遭ひ給ひし時『波風をいかで鎭めむ海津神天つ日を知る人の乘りしに』と詠じ給ひ、大風忽にして鎭まりし事あり。（伊藤定三郎直話聞書及其他）

○三月十八日備前岡山玉井宮に於いて、惑乱せむとする天下の人心を鎭定し、天照大御神の御神慮を安じ奉らむとの御講釋あり、（口碑）

○四月、所謂弘化三年御定書あり、次の如し。

定

一天照太神之御道之儀者大切成御事に候得者新御入門之御方者厚御心掛可被成候高弟之御方たり共耳馴候處より自然と容易に御聽聞被成候而者御道にふり候間彌御信心第一に候事

一御代講者輕からさる事に候間先生之兼而御免許有之面々計相勤候事勿論に候前講者臨時先生より御指圖を以誰によらす相勤可申候右勤候迚已後御代講御免許之例には不相成候事

一縱令神文の御衆中たりとも先生之御指圖無之内外方に於ゐて猥に御道之講釋致し爲聞又は御ましなひ等致し遣し候儀は天命之畏も有之事に候得者堅いたし申間敷事

一御札守御洗米頂戴之儀并御初穗差上等一切行司之者請込世話可致事

附り

御代講に罷越候もの御札守御洗米持參配分之上奉納之御初穗有之候はゝ請取歸り行司え可相渡候惣而御初穗謝義等に付御道之穢に不相成候樣心得可申事

一先生御自筆之

御神號七ヶ條書者神文相濟候御方御望に候得者御取次可申候事

一遠方より御參詣之御方及晩景御宿等其外何事によらす御賴之筋一切行司之者
え被仰聞候得者宜取計可申事
右之條々堅可相守之事

弘化三丙午年四月　　門弟行司

○閏五月十五日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第八〇號御書翰參照）
○閏五月十八日附大森武介宛御書翰あり。（教書第二一四號御書翰參照）
○閏五月二十三日附志賀淳平宛御書翰あり。（教書第三五一號御書翰參照）
○閏五月二十七日附野村庄兵衛宛御書翰あり。（教書第二八六號御書翰參照）
○閏五月二十八日附鉄屋平八郎宛御書翰あり。（教書第二八五號御書翰參照）
○十一月、御住宅手狹につき、門弟子發起となり、翌々年春を期して改築の議あり、其の趣意書次の如し。

口上

黑住先生之　御道近來格別御信仰之御方多御會日多人數之節者納り兼候に付先達而より御普請之義、先生え御すゝめ申候得共御斷に御座候然る處次第に御人數相增近來にては遠路よりも多く御出にて寒暑之時分抔者別而御氣之毒に奉存候右に付今般猶又御普請之義連に御すゝめ申上候處此度は御承知被成來る申之春御普請御取掛之御積に御座候然る處兼而先生御普請之思召無之事故其御用意御貯無御座候左候へば御門人中銘々御寄附申上御普請成就いたし候樣取斗度候に付其段行司共談合仕此度は相改皆樣へ及御披露候義に御座候一御普請之義に付　先生被仰候者自然仰山に相成候而者惣躰え の憚も御座候事故成丈け質素にと御咄被成候此段至極御尤之御事に奉存候去なから是迄之所御手狹に付御普請有之事故餘程の入用も可有之其上皆樣御案内之通り　御神前可なりの事故此度は今少し大振りに相成可然樣相考へ申候付ては　御神前之諸御道具等是又可なりに付是等も相應に相成度御座候左候得者參詣之御人々御信仰之一助にも相成　御道發行之基とも相成候事故兼々御隨心之御方樣格別に御奉納之義御承知被下度存候
一右御奉納銀之義者御銘々御身元に少しも不差障程つゝ多少によらす御寄附之程奉希候勿論此義に付御心配御座候而者却而　御道にも相背き　先生におゐても御受納無御座候間御作廻次第にて當時御寄附無御座とも少しも御構無御座候

一此帳面相認指出候間御投見被成御銘々御名元御書入可被下候併御寄附之員數御記帳被成間敷候員數御記帳被成候ては前後指障り候意味御座候に付御名元斗御記し置可被下候素より以後も何程何某何程何某と申事張出し等致し候義に御座なく候

一御奉納銀御指出し方之儀者當暮來七月十二月と三度に御出銀被下候而宜御座候但御作廻に寄候は、一度にても不苦候右御差出しの節は先生之於御宅元請之内え御渡し可被下候旱々も御寄附之儀に付御心配御座候ては御道の汚にも相成候間他え御拘り不被成兼而御蔭も御請被成候御方樣御信心の所より御氣安に御奉納被成候事第一と奉存候左候は、　先生にも御滿悅に御受納可被成と奉存候間此段得と御承知被下度奉賴候已上

午十一月　　行司

○『みちとせになるてふ桃のよはひをは君にゆつりて萬代やへん』の御歌あり。（教書第一二七號御歌參照）

○黑田清右衛門（美作國英田郡倉敷村、寛政八丙辰年生、慶應三年九月二十二日歸幽）、岡　惠吉（備前國邑久郡福本村）、尾形

長次郎（備前國邑久郡下山田村）、今田良吉（備前國邑久郡下山田村、寛政九丁巳年生、慶應三年六月十五日歸幽）、宇野榮藏（岡山藩士）、宇野善左衛門（岡山藩士）、岡本小傳次（備前國邑久郡西幸崎村、後京左衛門と改む、文政九丙戌年生、安政五年十月十二日歸幽）、昆湯野武左衛門（備前國兒島郡味野村多田屋）、藤田勝助（岡山藩士池田兵庫家老百六拾石）、瀧川彌右衛門（岡山藩士三百石、寛政五癸丑年生、嘉永四年正月九日歸幽）、出井常八（備前國邑久郡奥浦村）、外百二十六名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

弘化四年　二五〇七　一八四七　丁未　御歳六十八

〔孝明天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○夏『門人名所記』成る、命を拜して時尾克太郎が書きし序文次の如し。

天道往て還らすといふ事なしと宜なる哉古人の說忝くも我　皇國の神道當時微にして儒榮へ佛盛なるも三才自然の時なるのみ于茲我先生黑住翁は年月日時ともに子を以顯れ給ひ于眞天のなせる太神なるのみならす春秋三十五歳といふの冬至日拜在らせられてより其道大に行はれ四方風を望んて歸し門人日

に月に増ほとんと千か萬か其數をしらす中にも信仰の厚き徒其の名の聞ゆる者のみ此に記しぬ于實千百に一といふ歟于時

弘化丁未の夏　　門人　時尾克謹志

○右序文に關する書翰あり次の如し。

先日者參上仕大に御役介相成難有仕合奉存候　先生樣皆々樣へ御禮申上度宜御賴申上候且又御序之砌櫻井樣へも宜被仰上可被下候甚失敬奉存候得共御賴奉申上候然者先日相調候門人連名卷前文之事は篤相考候得者我々式の拙生斯大切成事容易に相考早速相調玉卷を汚し候事後代迄の恐れ不少奉存候間先以削置同門中有識の者如何程も御座候事故追々出來可申事に候間何卒右初卷の小口御切落し置被遣候はゝ大に難有奉存候無左候ては指當り先生樣の汚名にも相成り候且野生愚文出過之失難補候間是非々々御削置可被遣候偏奉賴上候先者右御役介申上度如斯に御座候以上

五月十六日　　克太

黑住佐之吉樣

○冬至の日、生坂藩士松田武（號は翠崖、天保十一年神文捧呈）教祖の御肖像を畫き、河上市之丞の贊を得て、之を教祖に奉る、松田武の副書及河上市之丞の贊次の如し。

余往歲遊于海濱、至某家、主人受黑住先生教、常慕德業久、故乞于余、使作先生之肖像、余曰、好畫不作人物、因匆筆不果、辭而歸、既及累年也、若問余今之圖、何以答之乎、抑亦有故、畫訣曰、欲寫肖像、以其人德、而不拘於形之似、予謂、假令雖得狀貌之似、不得其眞、不稱其人之德矣、故不似非也、雖似亦非也、於是覺難作、雖然每執筆、不免感情、今也試作此、而春川紀子贊題焉、予雖拙筆不辭、爲先生匆々落筆、余不堪驩喜、今日至日以贈于先生、若幸應先生之意趣、亦恐不違　皇天之尊旨、苟如是則予之願已足矣、伏竢敎諭、

丁未冬至日　　松田信義印印

再拜

呈

黑住先生

坐右

印

天照太神、日本崇祀、黒住先生、奉道克履、皇天乃感、先生之誠、救溺之權、獨擅先生、天謂先生、人心善良、自趨回辟、我爲悲傷、爾克贊我、祓讓弗祥、登壇講道、厥聲如鐘、意從天起、無物於胸、先生常說、惟忠與孝、祓之一言、神道首敎、說空非空、是

太神詔、不拘干儒、不佞干釋、合則可矣、不合奚擇、諄々之諭、切々之箴、陽氣勃興、夏日春風、愛如父母、威如霆震、四方景從、遠邇響應、支體之疚、項刻而寧、私心之晦、一朝啓明、克俾邪横、不軌之夫、化爲慈祥、敦厚之徒、若夫勞人、一經靈煦、疾苦立除、來輿歸步、衆曰偉哉、先生之力、神道之光、昏迷將息、先生曰吁、吾無知識、天照太神、覆閔之德、於戲先生、年已七旬、肌膚豐厚、神强氣純、天生尤物、良有以也、徒聞其聲、知其情寡、孰名先生、昆有識者、

弘化丁未暢月

紀晶謹撰并書

印　印

○武内來藏（備前國邑久郡佐山村）、森金爲藏（備前國邑久郡下阿知村）、岡本万吉（備前國邑久郡福元村）、外六十三名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

嘉永元年　二五〇八　一八四八　戊申・御歳六十九

（二月二十八日改元）

〔孝明天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○四月二日、前々年計畫せられし改築の儀成就して上棟式あり。當時の『到來物覺帳』には、左記八十人より到來せし祝の品々記入しあり。

大供たばこや善　次郎　田の口や元　右衛門　たばこや字　吉
嘉島屋嘉　吉　隣家森安治右衛門　當所岩吉
櫻井氏　森安圓吉　金助
助九郎　惣介　吟藏
おこの　音六郎　新福村坂右衛門
當所周介　幸平　善之介
六之介　源吉　嘉介
當所市太郎　大供村岩吉　清右衛門
吉次郎　清次郎　甚吉

文吉　市右衛門　万吉
常吉　山本氏　志部谷忠右衛門
今村氏　當村慶治郎
中村安右衛門兩親　佐藤常右衛門内
節　石尾喜六郎　今村美代吉
下村六左衛門　尾ぜき　寅之歳女
下中野村文太夫　當村介右衛門　當村鉄次郎
長瀬氏　中若屋久兵衛　關屋三太郎
矢屋久米太郎　下出石久藏母　安太郎母
要藏郷司氏　小川屋甚七郎
疊屋又右衛門　藤原藤作　七島屋五郎右衛門
播磨屋林七郎　鉄屋平八　小神氏
上野御内所　石田　深井源介
末廣　荻原　河本丈八郎
大森武介　輕部　岩堂

一森彦六郎　尺所大森武介　瓦師六左衛門
野村屋平左衛門　壇田市太夫　幸崎小傳治
出屋敷惠吉　櫻井喜間太　福田村治三郎

中に就き、幸崎小傳治と出屋敷幸吉と櫻井喜間太とよりの祝物としては、夫々『いん氣不殘』『うたがい不殘』『けかれ一切』と誌しあり。又大工十二人、木挽一人、屋根職六人、日用人、番人、掃除人等十三人への、夫々謝禮の品目記入しあり。又一人に銀貳分づゝ、凡二百四五十人の乞食へ施與の旨も記入しあり。

○六月二十一日晩、御長孫權吉の君御誕生、後宗篤と御改名。

○十月八日、御室いく子夫人御歸幽、御年六十四。時に教祖三首の御歌あり。（教書第一四三號第一四四號及第一四五號御歌參照）

○小林儉造（美作國東北條郡大篠村、生年月日歸幽年月日不詳）、河本泰祐（備中國賀陽郡宮内、後務と改名）、池田千代藏（美作國西々條郡宗枝村）外六十五名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

嘉永二年 二五〇九 一八四九 己酉 御歳七十

（閏四月）

〔孝明天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○六月澁川圓之進の妻たりし三女とめの君御歸幽。

○七月二日、とめの君の御歸幽を御悼みありて御不例なりしを、時尾克太郎祈りて『眞こゝろの底よりいつるいたみなれは守らせたまへ天地の神』なる歌を神前へ奉納す。

○八月十二日、教祖の御家に起臥して教祖の御教用を勤め居りし菱川銀治兵衛歸幽。

○十一月十七日御宅に於いて御講釋あり、是れ最後の御講釋なり。（梶の君直話）

○十一月二十二日より御病氣の氣味にて御勝れ遊ばされず。（梶の君直話）

○『月は入り日は今出るあけほのに我こそ道の始めなりけれ』の御眞筆あり。（教書第一〇七號御歌參照）

○野々上帶刀（美作國勝北郡大町村）、佛教寺嚴敬、佛教寺嚴鵬、武元常陸（山城國京都吉田殿内）

外百七十七名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

嘉永三年 二五一〇 一八五〇 庚戌 御歳七十一

〔孝明天皇、將軍家慶、藩主池田慶政〕

○二月（己卯）二十五日（戊子）日出に御歸幽遊ばさる。

○水島瀨吉（美作國勝南郡吉留村）、外八十一名神文を捧呈して入門す。（門人名所記參照）

御歌文番號索引

御歌の部

第一號より第一一七號迄は番號順なり

御歌番號	所在頁數	御歌番號	所在頁數	御歌番號	所在頁數	御歌番號	所在頁數
一一八	五三	一二五	五八	一三七	六二		
一一九	五五	一二六	五八	一三八	六二		
一二〇	五五	一二七	五八	一三九	六二		
一二一	五六	一二八	五九	一四〇	六二		
一二二	五七	一二九	五九	一四一	六三		
一二三	五七	一三〇	五九	一四二	六四		
一二四	五八	一三一	六〇	一四三	六四		
		一三二	六〇	一四四	六四		
		一三三	六一	一四五	六四		
		一三四	六一	一四六	六六		

一四七	六六
一四八	六七
一四九	六七
一五〇	六八
一五一	六八
一五二	六九
一五三	六九
一五四	六九
一五五	六九
一五六	七〇
一五七	七〇
一五八	七一
一五九	七一
一六〇	七一
一六一	七二
一六二	七二
一六三	七二
一六四	七三
一六五	七三
一六六	七三
一六九	一一
一七一	一九
一七二	二〇
一七三	二〇
一七五	二四
一七六	二七
一七八	二七
一八〇	二九
一八一	三一
一八二	四〇
一八五	四一
一八七	四一
一八八	四三
一八九	四四
一九〇	四四
一九一	四四
一九二	四六
一九四	四七
一九五	四七

一九六	五一
一九七	五一
一九八	四九
一九九	五一
二〇〇	五二
二〇一	五二
二〇二	五二
二〇三	五三
二〇四	五三
二〇五	五三
二〇六	五五
二〇七	五六
二〇八	五六
二〇九	五六
二一〇	五七
二一五	六一
二一六	六三
二一七	六三
二一八	六五
二一九	六五
二二〇	六五
二二二	一一
二二三	四八

御書翰の部

御書翰番號	所在頁數
一	八五
二	八七
三	八九
四	七七
五	九一
六	七八
七	九三
八	八一
九	一〇六
一〇	八三

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二
二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
九六	一〇四	二九	九八	一〇三	九四	一一〇	一二一	一三一	一二三	一一七	一一一	二一三
二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六
一五七	一六九	一七一	一八三	一九五	二〇七	二一九	二二一	二三三	二四五	二五七	二六九	二七一
三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九
一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八
二六一	二七二	二八三	二九四	三〇五	三一六	三二七	三三八	三四九	三五〇	三六一	三七二	三八三

五	五	五	五	五	五	五	五	五	六	六	六	六
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	一	二
一六一	二五一	二一七	二一九	二二一	二五四	二五五	二五六	二五八	一七四	一四一	二五九	二一三
六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五
一六九	一九三	一八七	一八九	一七〇	一七四	一七七	一五五	一七三	一七一	二六〇	一九九	一九九
七七	七八	七八	八〇	八一	八二	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八
二六二	二七二	二八二	二九二	三〇二	三一二	三二二	三三二	三四二	三五二	三六一	三七一	三八一

八九	二七〇
九〇	二七一
九一	二七三
九二	二七四
九三	二七五
九四	二〇四
九五	二〇五
九六	二〇二
九七	二一二
九八	二一〇
九九	一〇一
一〇〇	二七六
一〇一	二七六
一〇二	二七八
一〇三	二〇一
一〇四	一九九
一〇五	二八一
一〇六	二八二
一〇七	二八三
一〇八	一〇〇
一〇九	二九一
一一〇	二九三
一一一	一九三
一一二	二九四
一一三	二九五
一一四	二九六
一一五	二九七
一一六	二二二
一一七	二二七
一一八	二九九
一一九	三〇一
一二〇	二二六
一二一	三〇二
一二二	二二五
一二三	三〇三
一二四	三〇四
一二五	三〇五
一二六	三〇六
一二七	一四〇

一二八	三〇八
一二九	三〇九
一三〇	一四二
一三一	一二四
一三二	三一〇
一三三	二一五
一三四	一八四
一三五	三一一
一三六	一六六
一三七	三一二
一三八	三一三
一三九	三一四
一四〇	三一五
一四一	一九八
一四二	三一六
一四三	三一八
一四四	三一八
一四五	三一九
一四六	三二〇
一四七	三二〇
一四八	三二一
一四九	三二二
一五〇	三二三
一五一	三二三
一五二	八三
一五三	一八九
一五四	三二四
一五五	三二五
一五六	三二六
一五七	九六
一五八	三二七
三四〇	一六三
三四一	一六四
三四二	二四四
三四三	二四五
三四五	二〇七
三四六	二〇九
三四七	二八七
三四八	二八七

三四九　二六二　五〇〇
三五〇　二八〇　五〇一
三五一　二二八　五〇二
三五二　二八八
三五三　一九五
三五四　二八九
三五五　二九〇
三五六　二九一
三五七　二六三
三六一　一八二
三七六　一四五
三七七　一五三
四九九　一一四

一六〇
二四七
三四三

御歌文内容索引

あ

悪をさる年　（一三）
赤子　（三九）
明ほの　（四六）
悪敷　（五一）
秋　（五三）
悪によらず　（七八）
悪心なき　（八三）
悪事千里　（一〇五）
悪魔　（八、一三七）
朝顔　（三）
朝日　（四七、五五）
明日より尺所へ　（二九一）
あたへ給ひし　（四九）
東　（三四、三五、三六、三七、五七）
あつまの道　（四八）
跡は難有　（三〇七）
あほふらしゆう　（一一六）
天つちにおとらぬ　（七）
天地の心　（九）
天地を我身のうへ　（一二）
天地の　（三〇）
天地の樂　（六二）

天地は　（六〇）
天つちの道に迷はぬ　（一〇二）
天つちにたゝ一筋の其道（二〇三）
有物は皆吹はらへ　（二一、二二）
ありなしをはなれん　（二〇）
嵐　（六四）
有る無き　（八八）
難有き一ぺんに　（二五二）
難有事御浮　（二六五）

い

家　（四七）
生通　（四、三八、七一）
活物　（八、三三）
いかさす　（八八）
活死　（二三、五〇、五二）
池田家　（一三七）
いきものは心一つ　（一六五）
活る時いき　（三三九）
生物は御心に　（三二四）
伊勢　（三一、三二）
五十　（六九）
出る日　（二三）
一を知る　（二七）
一會も欠無　（八一）
一宮　（一一一）
一切天に御任　（一二五）
伊東佐兵工　（一五六）

いつ迄も歸らぬ事をし
とふはしゆうちやく　（一六六）
一統之陰氣　（二〇一）
一陽を御まし　（二七四）
五日五夜位にて　（二七六）
一切執行　（三〇九）
一心にうくる人　（三一五）
命たゝ　（二四）
命こそ　（二四）
命心のまゝ　（一一三）
祈は日のり　（二四一）
今に替らぬ世　（六二）
今村宮　（一〇八）
今村五郎左衛門　（一二八）
今村宮へも當家にても　（一九七）
今の歌の心　（二九九）
色なきを　（三二三）
いろ〳〵妙成事　（九〇）

う

うかむ瀬　（六一）
うきよの夢　（一一）
浮舟　（二七）
浮世　（四二、四九）
浮世を苦のとうという　（二〇〇）
鶯きゝぬ　（三二五）
右近殿　（一〇二）
生れすしなぬ　（一一）

海あれは　（二八）
海　山　（七八）
生の子よ　（九七）
有　無　（二八）
うむもしやうしも　（一〇）
うむをはなれし　（三九）
有無の山　（九六）
嬉敷浮世　（一二）
嬉敷世　（一二）
嬉　敷　（二八）

え

榮三郎　（一一五）
ゑた葉　（五五）

枝葉にて　（三一二）

を

老初のはる　（一八、三三）
老そめに　（二九）
老　も　（三三）
大やまと　（二九、五六）
大に御ゑん深き　（二八四）
大はつし　（二九二）
御影は一心次第　（二八六）
御氣遣は　（三二二）
奥の手の所　（一八五）
おくびよふなく　（三二四）
行つたなきこそ　（一二一）

をしへも天より　（九八）
をしへは天より起　（九九、一二七）
御城御燒失　（二二六）
御　茶　（一四七）
おなひとし　（七）
おなしみち　（二五）
鬼　（二八、三八、五七、七一）
己か住か　（一九）
己か姿　（一八、四一）
尾　上　（一一四）
太神の御心が　（三三〇）
御祓ふり　（三三三、三三四）
おもかげ　（六九）
面白き世　（三九）
面白斗也　（三〇二）
面白く　（三〇六）
思ふ事叶はねばこそ　（一一九）
親にしたがう心　（九七）
おやの心　（九七）
親子兄弟たりとも　（二九四）
御心いかにも廣く　（二五八）
御おぼれ　（三〇一）
御形の天命　（三二八）

か

會日之人々　（三三七）
鏡　（三八、四一）
かきり知られぬ命　（六）

かきり無命　（二九、三〇）
かきりなき身　（五五）
懸　物　（一〇三）
かさにて　（二九三）
火事御座候　（一七七）
かしこき人　（三一四）
かぜにまかせて　（五九）
風の落たる　（一五三）
形之上はとにもかくにも（一〇六）
形之上の禁　（一二〇）
形をは病に　（一五六）
形程は丈夫に　（一七三）
かたちは難有が形の持まへ　（二〇七）

かの天照皇太神は　（三一七）
かぶ筆　（八二）
神の宮居　（六）
神　代　（四三、七二）
髪のはげ　（九二）
龜　次　（一三六、一四六）
かゆひ所え手のとゞかぬ（一五四）
ケ様成時社かの天命に御任　（一六九）
唐も大和も　（二〇三）

き、ぎ

きつとした事　（八二）
吉凶を　（三〇五）

君の　（二六）
君の光　（六）
君の心　（五〇）
君か世　（二六）
奇妙成事　（二八三）
ぎやく　（二六六）
清き心　（五二）
きやう歌　（八五）
吟　次　（一五九、一六〇）

く、ぐ

くちなは　（一二八）
口ばかりにてとく道　（一三五）
雲　（四八、五五）
雲居に光る　（二六）
雲きり　（八四）
くらきより　（三二五）
苦樂はかつて　（二一六）

け

けふのとふとき今の心の（二〇九）

こ、ご

御安心の姿　（二六七）
御一心をすへ　（二七四）
御一心の一つ　（三〇四）
御一生の御事　（三二一）
皇太神宮え奉謁　（二二七）

好男子（一三一）
御縁談（一七八、一七九）
御縁談之御義（一七五）
御をんを（二八九）
御開運被成（二七五）
極　意（一二二）
極意過て（二三九）
極　樂（一〇九）
古今之出來（三二一）
心明成時は（三〇〇）
心いきさへ仕候得は神也（一六五）
佛也人也
心を養ふ時は自然と形（一七四）
はたつしや（二五七）
心から（二九四）
心からいきさへ（三三七）
心こゝに（三三八）
心たまり不申（一七九）
心と申物はあぶなき物（九三）
心に年のより被成ぬ（三一六）
心に隨ふもの（二一八）
心に成就（八）
心のありか（二七）
こころのかじ（一六）
心の雲（一〇）
こゝろのすみか（四七）
心の柱（三〇三）
心の祓也（三〇二）
心の向方

心の元は（三一三）
心ばかり生物（三二六）
心程の世を經る（一五一）
こゝろも日月より（二三九）
心よはくては（二四五）
心はこゞる（七九）
御心配筋（三二九）
御精よはき時は（二七四）
御餞別（九五）
五社參（一一一）
御腫物（八一、八三、八六、八七、八九）
五十人斗（八一）
御同姓（一六三、一六六）
事をとらば（八二）
こゝも不仕（八四）
小供のこゝろ（九三）
小供のまゝ事（一一六）
子供までに（三二六）
御入湯（八六）
五人程（九二）
此☆一つにて（二五六）
此國の自然の天のをし（一三二）
へうくる（一〇六）
此世界我心のうち（二二八）
此後者如何に（三〇六）
是も天命（九一）
ころさぬやう（二七九）
こんかぎり執行（八三）
今夕御日待

さ

さきを枯さぬ（二六八）
さしあたる事（四〇）
里方より悪智へ（一八八）
里方悪ちへ（一八九）
さつばりと御濟し（二六九）
佐分利（一四四）
佐分利淺野（一四五）
さわらぬやう（三一一）
三十年以前の大難（二二二）
参籠（一四四、一五〇）

し、じ

四海兄弟（二〇五）
志賀淳平忰（二二三）
四月迄御詰越（一八九）
時々刻々に殺さぬ（八八）
自然を御待（三二〇）
しせんの風（八四）
自然の成事（二七九）
しせんのなす所（一〇四）
自然の道（一二七）
日月にて生物（三三二）
日月四海を照し給ふ（二〇四）
日月様に奉打まかせ（八三）
日月は一体（八二）
志津摩殿（一二六、一五八）
小子参上（二七八）

小子手がらには（二九三）
小子に目を付（一三八）
生死の海（二八、九六）
邪陰をはなれ（二九五）
邪を見て彌正をます事（一九一）
道の大一（一二四）
邪ちを捨て（二九〇）
邪のつよき（一一四）
邪物も次第にしづまり（一三七、一八三）
邪は正の本（七七）
執行口（七九）
常祓（二四九）
書物に致し（三一九）
神水の德（八八）
神佛

す

末のよ（四三）
姿（五六）
姿をば（四一）
姿こそ（四〇）
姿なき（四〇）
姿無き心（二〇）
過たるは不及（二六〇）
直に神ぞと（三三〇）
少之間も油斷相成不申（一五九）
少斗の智が（二八八）
少も〳〵七ケ條の御心（二〇〇）
御忘被成間敷候

すゝむ時は甚あやうき物（一四三）
すつる（六二）
すてん（六二）

せ、ぜ

正はかくれ邪者あらはれ（一六二）
世界をにぎる（七一）
せまき心（二八）
仙石家（一九一）
千石様一件（一七六）
先年大金を段々取次（一九六）
千里御隔たり（一四〇）
善悪共に御影（一〇五）

そ、ぞ

俗情（三〇二）
其端〳〵（三〇一）
其原こそ（三〇〇）
その山（九）

た

大陽の氣をからす（二〇六）
たすけ（六〇）
たつた一あし（四八）
たつたひとつの心（六一）
たつた一つのまこと（六一、七三、二九八）
たつた一つののよく（八七）
辰己の平六（一五二）

玉子のことし（二三〇）
ためし（四四）
たもつ（六二）
たらぬ（五〇）
たるまぬやう（一四二）
たるみなく（三〇八）

ち、ぢ

ちへがつき（二五一）
地獄（一〇九）
千年（四四）
茶屋町長次郎（一三〇）
宙にぶらり（一一八）
晝夜つめだんじき（一五〇）
晝夜照し（三一八）
千世に（六八）
ちり（一四）
ちりあくた（四一）

つ

月（四五、四六、四七、七八）
月に村雲花に風（一八五、一八七）
月日とともに（二九六）
つかみとり（一五四）
つかれ（七七、七八）
つくし（五九）
つゝみのくづれ（三一二）
つまらぬと奉存候得は（一八六）
誠につまらぬ

つらき時　（六〇）
鶴　（四三、四四）
鶴　龜　（四七）
つるやかめ　（一三）
露　霜　（四七）

て

天照大神御開運　（二二五）
天照大神の御道　（三〇五）
天照大神も御感納　（一四一）
天下に一番と申位　（二五五）
天社日　（一三）
天地君親のもの　（二一四）
天地御國恩　（三一九）
天地之奇妙　（一〇四）
天地の誠　（九二）
天地の妙　（九九）
天地はいき物　（九〇）
天道様　（三三八）
天德也　（二四六）
天に御任　（三〇九）
てんの御助力　（一二三）
天の時　（一二三）
天のみこゝろを　（三一七）
天のもの　（五〇）
天　命　（五三）
天命開運　（一〇一）
天よりをしへを請　（一二二）

天は則無にして則有　（八五）
寺　（一二一）
照り渡る　（七〇）

と、ど

とふき東　（二五）
遠き事　（三〇八）
尊も賤もなし　（一三三）
道具やにて　（二三五）
東西へ走　（八四）
冬至之日　（八一）
年をへて　（六七）
殿　様　（一四八）
土肥を始　（九五）
土肥家　（一三六）
富田様　（一七二）
鳥かなく　（五）

な

内宮様御祓　（二六四）
なかくあそはん　（六五）
中仙道　（一一一）
無きをたのしむ　（一九）
なきを養ふ　（一九、二〇）
無心にて　（二三、七三）
なきこそ己かすみか　（七三）
無　物　（五一、一六七）

何事も有かたひにて世
にすめは　（二〇七）
何事も御ひかへめに
何事も限りをつけ給ふ　（一四三）
へからす　（一九八）
何事も小道に御寄被成
間敷候　（一八六）
何事も自然に　（二七三）
何事も天命に　（二八一）
何事も〳〵天命次第　（二六一）
何こともそみ無　（一六二）
何もかもたり候　（二一三）
七島屋へ御出被成　（一九二）
七ツ過　（一〇八）
七ツ時　（一一一）
なみたこほるゝ　（一五）

難ありが難有　（一九四）

に

廿六年の病　（一五六）
日蓮宗　（一一五）
日本第一の　（三三六）
二百石者〳〵之備　（一九五）
庭瀬　（一一一）

ぬ

ぬるみ合　（一一六）

ね

願ひ　（三八）
子こそつよかれ　（四）

ねて暮す　（四七）
ねてもおきても天の心を（二一〇）
ねてもさめても　（五、四八、四九、六三、七九）
根の國　（一〇九）

の

のこらずはやく　（五）
望み　（五二）
のりくら　（一〇五）
乗り參らぬ　（一四二）

は

八年の風　（一五一）
花　（六四、六五、六九）
花咲　（五三）
はらをたてず　（二八四、二九七）
祓　（五四）
祓也　（二九九）
はらへども　（三三五）
春　（五三）
春の氣に　（一四八）

ひ

ひかへ　（八一）
光り　（五六）
日こと〳〵　（六）
七ヶ年此方之御繁多　（一八一）

七本めは（一七六）
一口に（七九）
一つ之御一心（三四〇）
日月つ（三一、三六、三七、七九）
ひとつに成れはいきとふし（一六八）
日止津實屋井（五七）
人さと（一二四）
人の心をくはんずるに（一二五三）
人の迷ふらん（九）
人の病者元より草木酒（三一九）
人々之一心に寄候（一五一）
人はともあれかくもあれ（一三五）
人者暇にては不宜（一八一）

日神の御德をくらます（一三七）
日の本（五五、五六、七二）
日待（八六）
百か一つも勤り不申（一九三）
百そ小はひの上（六三）
百に一も（二九二）
ひろき世界（三〇四）

ふ、ぶ

奉行樣御付（一八〇）
福田氏（一五八）
ふじは我身（三三九）
ふたつなければ死する物なし（二〇二）

ふね（五九）
古印（一三八、一四四）
古田氏（一二八）
古田氏卯三郎（一三四）
古田も近比（一二六）
不老不死（八七）
分別者（二九九）

へ

へも（一五二）

ほ

法華宗（一〇五）
佛（三三、三四）
佛なとを（九〇）
佛に成り候得は則佛也（一五一）
本心は天照太神の分しん（二〇九）
本体の生物（九〇）

ま

毎朝東に御向ひ被遊（一七〇）
まげて下に入り（二七二）
誠に〳〵生とふし（二二一）
信の心御わすれ（二八五）
まことの本躰（二九八）
誠の道（一一）
誠一つにて（三一五）
ましない此道の外（一二五）

まつ
末代迄の道の印　（四二）
魔道　（一五八）
まるき御神に年はより　（三）
不申　（一九八）
まるき中に丸き心をもつ人　（一九八）
○こと　（五七）
丸事の　（六七）
丸事は○事也　（二六三）
迷　（五二、五七、五八、六〇）
まん心　（一二八）
まんじぬやう　（二八二）

み
身を身とも　（二一四）
神圖　（一〇〇、一〇八）
みき　（一四）
御心を穢し候　（二三四）
みじゆく　（八〇）
御玉をやしのう　（三一三）
道を外れ　（二九五）
道しんこうの人　（三三一）
道直に天照太神也　（二〇一）
御寶　（九）
道と云ふ名に　（三二二）
みちとせ　（五八）

みちてかけなき惠　（一六四）
道の道也　（三二六）
道の元入　（二八〇）
道ひらき　（三）
道も色々に　（二五九）
道も開運と　（二九〇）
道も八方一度に　（二八七）
道も先音なしに相成　（一二〇）
道は一切いかす事　（二三二）
道は一本之木　（八二）
道者御一躰　（二八九）
道は誠勤安き物也　（二〇三）
道は○きより外は無御座候　（一九八）
道は滿也　（二〇六）
水をあひ　（一〇八、一一一）
三つ子　（三九）
滿つるをかぐ　（二一七）
滿れはかげ　（二五〇）
皆明り者入　（二七七）
水上　（五九）
みな無也　（三二七）
みね　（五九）
宮内　（一一一）
妙は彌あらはれ候　（九九）
みはおはるとも　（六八）

む

無をはなるゝ　（一一八）
無が過ぎ　（三二三）
むちやくちや　（八八）
むまれす死なぬ道　（五〇、五二）
村　雲　（七七）
むりに御くふう　（八八）

め

芽ぐみかけ　（一二〇）
【】めでたき世　（一五）

も

もつたいなき　（九二）
元を御わすれ　（三一二）
本をすまし　（七八）
もとの姿　（一八、一九、二〇）
元は丸忘れ　（三三七）
桃　（四三、五八）

や

役に立ち不申　（二三六）
陽氣ゆるむどいん氣つ　（二〇六）
よる
養　ふ　（一六七）
やすく嬉敷　（六三）
柳之風に流るゝ樣　（一八三）
山田もり　（二四〇）
やまひくらいの物　（九〇）

ゆ

行も歸るも生も死も　（九八）
夢　（五三、六四、六九、一二八）
夢の世　（二七、六四）
ゆるさぬ　（三二〇）

よ

よき事のこやし　（八八）
吉　惡　（六六）
四つの道　（九五）
世に德は　（三〇七）
世のちり　（六五）
世の中　（六八）
世の花　（六五、六八）
餘ほと開口　（二九六）
よめむこ　（一三一）
悅ひはかなしむうら　（一一七）
よろすの善　（四）
萬のたから　（一三）
よはひ　（六九）
夜は宮に入り　（二四三）

ら

らいのことく　（九五）
雷復の如く　（二七一）

り